

平成24年度使用

中学校用教科用図書の
選定に必要な資料

島根県教育委員会

各発行者記号は、次のとおりである。

A	東京書籍	J	光村図書出版
B	大日本図書	K	帝国書院
C	教育図書	L	大修館書店
D	開隆堂出版	M	啓林館
E	学校図書	N	数研出版
F	三省堂	O	日本文教出版
G	教育出版	P	学習研究社
H	教育芸術社	Q	自由社
I	清水書院	R	育鵬社

選 定 に 必 要 な 資 料

国 語 科 No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫	6. その他	
A	<p>・「話す・聞く」の領域では、つきたい力を焦点化して教材を精選し、「読む」領域では、生徒の発達の段階にあった教材を選んでいる。</p> <p>・各領域とも、学年段階に応じた適切な教材を取り入れている。</p> <p>・非連続型テキストを多く取り上げた説明的文章を取り入れている。 (1年 p.126)</p>	<p>・各学年の発達の段階に適した教材を選択している。</p> <p>・「読む」領域の教材を新鮮な作品と定評のある作品をバランスよく配置している。</p> <p>・各学習材に「言葉の力」を示し、学習のポイントを明確にしている。</p> <p>・1年間の文法学習を効果的に配置している。</p>	<p>・全学年ともB4判の折り込みページにカラーの挿絵や写真を載せ、古典に対する興味を喚起する工夫をしている。 (1年 p.104)</p> <p>・「書く」、「話す・聞く」の教材は2段構成で提示し、上段に学習の流れ、下段には具体的な作品例を載せ、生徒が意欲的に取り組めるよう工夫している。 (1年 p.204, 2年 p.70)</p>	<p>・読書活動の充実を図るために年3回読書単元を設定し、全学年とも教科書教材と関連のある図書を表紙をテーマ別にカラー写真で紹介している。</p> <p>・資料編で「情報の調べ方・使い方」「情報の伝え方」についての具体的な方法を紹介している。 (1年 p.271~p.277)</p>	<p>・本編・基礎編・資料編から成り、基礎編では、基礎的な能力について解説するとともに、練習問題で確認ができるようにしている。(1年 p.222~)</p> <p>・資料編に、教材と関連のある読み物を掲載している。教材の終わりには、その関連性が記号で示してあり、活用しやすくしている。</p>	<p>・新出漢字を、脚注に分かりやすく大きく掲載している。また、新出漢字を用いた他の語句を読み仮名付きで挙げ、語彙を増やす工夫をしている。</p> <p>・新しく付け加えられた常用漢字の読みに関する単元を設けている。(1年 p.190)</p>	<p>・各単元の扉には、季節感のある写真と詩歌を配し、様々な言語表現に触れ、感性を磨く場を設定している。</p> <p>・各領域とも学年段階に応じた適切な内容・程度で教材をバランスよく精選している。</p> <p>・思考力・判断力・表現力の基礎となる「言葉の力」を3年間で系統的に積み上げる工夫をしている。</p>
E	<p>・長文の文学教材が多いが、幅広いジャンルにわたって教材を選定している。</p> <p>・各領域とも学年段階に応じた内容・程度の教材を取り入れ、無理なく学習できるよう工夫している。</p> <p>・文法の学習では、基礎的な知識を詳細に取り上げて学習できるように工夫している。 (1年 p.190,242)</p>	<p>・「読む」領域の教材が豊富であり、幅広いジャンルのものを掲載している。</p> <p>・各単元で「習得・活用・探究」の目的に合わせて教材を選定し、読解力の育成を目指している。</p> <p>・「探究」の教材については、生徒の実態に応じて取り上げるよう工夫している。</p>	<p>・全学年、巻末には「月の異名」「十二支」の表紙をカラーで掲載し、古典学習への興味を高める工夫をしている。 (1年 p.357)</p> <p>・言語事項に関する教材では、挿絵や外国語の例を挙げるなどの工夫をし、生徒が興味をもって学習できる内容にしている。 (3年 p.46,188,298)</p>	<p>・テーマ(1年「近代文学」「平和」)について、読書を深められるような教材を設定している。</p> <p>・批評的、分析的に文章を読む力を育成するための教材を全学年で取り上げている。(2年 p.38,3年 p.53)</p>	<p>・教材末の「学びの窓」に、「家庭学習」として、具体的な学習活動を示している。 (1年 p.22,84,90,100)</p> <p>・巻末の「言語の学習」に、語彙や文法に関するものをまとめて解説し、復習しやすくするとともに、「発展的な内容」として、古典文法や古語を収録している。 (1年 p.327,357)</p>	<p>・文法等の学習の例文で、既習の教材を活用し、生徒が興味をもって取り組めるよう工夫している。(1年 p.304,3年 p.51)</p>	<p>・表紙の裏から目次にかけて、10ページ以上にわたり、1つの絵が描かれ、生徒が次を想像しながらページをめくることができる仕掛けにしている。</p> <p>・A5判で、音読や学習スペースに配慮したサイズにしている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

国 語 科 No.2

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫	6. その他	
F	<p>・「読む」領域の教材は、本冊には少数を選定して取り上げ、別冊には多くの教材を載せて、生徒の実態に合わせて選択できるよう工夫している。</p> <p>・「書く」領域の学習に重点をおき、書く機会を多く設けている。その題材もレポートやリーフレット等、実際の生活に役立つものを取り上げている。(1年 p.40)</p>	<p>・巻頭の詩から古典まで連続する作品群は、伝統的な言語文化を重視した特徴的な構成である。</p> <p>・全学年「読む」領域の教材では、「学びの道しるべ」として、「一人で学ぶ」「みんなで学ぶ」「学びを振り返る」という学習の流れが共通しており、見通しをもって学習できるよう工夫している。(1年 p.56)</p>	<p>・各単元の扉に「的確に表す」などの能力目標を明確に掲げている。また、それに対する問いかけがあり、問題意識をもって取り組めるよう工夫している。(3年 p.33)</p> <p>・「漢字を使いこなそう」の単元では、漢字の成り立ちについてのコラムを掲載し、漢字への興味を喚起している。(1年 p.32)</p>	<p>・「読む」領域の教材の後には、関連図書の表紙を内容別・作者別にカラーで掲載している。また、生徒が本を紹介する欄も設けており、読書への興味をもたせる工夫をしている。(1年 p.57)</p> <p>・情報活用能力の育成のため、別冊・資料編には「情報活用編」を設けている。</p>	<p>・「言葉のレッスン」では、自主学習しやすいように漢字や文法について解説と練習問題を掲載している。(1年 p.208~240)</p> <p>・本編の後の「確かめよう」では、領域ごとに学習事項を挙げている。生徒に分かりやすい見出しにし、自学自習に活用しやすいよう配慮をしている。(1年 p.244)</p>	<p>・巻末の新出漢字の一覧表を多色刷りで見やすくし、また詳細に解説している。</p> <p>・活字が大きく見やすい。写真や図も大きくビジュアル的な配慮をしている。</p>	<p>・本冊と別冊の2冊に分冊し、別冊では学習に必要な基礎知識を詳細に説明している。</p> <p>・1年の入門期にまず声を出して音読する単元を設けている。教材は、「現代詩」「和歌」「漢詩」等バラエティーに富んでいる。</p> <p>・漢字の習得を重視している。</p>
G	<p>・各領域とも、学年段階に応じた適切な内容・程度の教材をバランスよく取り入れている。</p> <p>・「話す・聞く」「書く」の領域においては、日常生活に役立つスキルを身に付けられるよう教材化している。(1年 p.146)</p> <p>・「読む」領域では、近代文学の名作を取り上げている。(1年 p.138)</p>	<p>・領域ごとに教材をまとめて掲載しているので、教材相互の関連性を意図的に結ぶことが可能である。</p> <p>・教材の前書きや「みちしるべ」を設定し、学習内容やポイントを確認できるようにしている。</p> <p>・「ここが大事」では学んだ内容を活用するポイントを示している。</p>	<p>・「学習のねらい」をB4判横2枚分の折り込みに領域別に示し、裏には「学習記録シート」を掲載することで、生徒が目標をもって意欲的に学習に臨むための工夫をしている。(1年 p.8)</p> <p>・生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるよう、映画や歌を教材に取り入れている。(2年 p.98, 3年 p.178)</p>	<p>・「読む」領域の教材の後や巻末に、関連図書等の表紙をカラーで掲載しており、読書への興味をもたせる工夫をしている。</p> <p>・情報活用能力の育成のために、情報の収集から発信するまでの過程を詳しく説明している。(1年 p.176~181)</p> <p>・メディアリテラシーについて考える機会を設定している。(1年 p.100,101)</p>	<p>・学習材によっては、「やってみよう」として発展的な学習を示している。(1年生 p.44)</p> <p>・小学校で学習した漢字の練習問題や、当該学年の教材に関連する漢字の読みの練習問題を掲載し、家庭学習に活用できるようにしている。(1年 p.220~226, 2年 p.240~246, 3年 p.236~242)</p>	<p>・巻頭に「身につけたい言葉の力」「国語学習の進め方」をカラーの図で示し、国語の学習を概観できるように工夫している。(1年 p.6)</p> <p>・「関連させて覚えよう」では同音の漢字や部首などテーマを設け、漢字を整理して身に付ける手立てとしている。(2年 p.240)</p>	<p>・裏表紙見返しには文学者の写真資料や直筆の原稿を載せたり、言葉のもつ役割について簡潔に述べたりするなど、言葉に対する興味をかき立て、感性を育てる一助としている。</p> <p>・領域ごとに教材をまとめて掲載しており、相互の関連性を意図的に結ぶことができる。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

国 語 科 No.3

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)	
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫		6. その他
J	<p>・各領域とも学年段階に応じた適切な内容・程度の教材を取り入れている。</p> <p>・「書く」「話す・聞く」の領域では、時間をかけて学ぶ教材と、1時間で学ぶ練習の教材を設け、軽重をつけている。(1年 p.36,128)</p>	<p>・説明文教材は論説文・評論文・記録など幅広い分野におよび、論理構成のしっかりした作品を取り入れている。(3年 p.42 等)</p> <p>・1年 p.14 には、「言葉に出会うために」を設定し、3年間の学習の見通しをもたせた上で、言葉の力をつけていく基本的な手だてを示している。</p>	<p>・古典教材ではカラー写真を多く掲載し、生徒の興味を喚起している。(2年 p.144)</p> <p>・「話す・聞く」「書く」教材では、学習の流れとポイントを図示し、学習の見通しをもちやすいよう工夫している。(1年 p.36)</p> <p>・文法学習では、導入に挿絵を取り入れ、学習への関心を高める工夫をしている。(2年 p.64)</p>	<p>・読書活動の充実のために全学年で読書単元を設定し、テーマ別に推薦図書を表紙をカラーで掲載している。</p> <p>・情報活用能力を育成するために、「読書と情報」の単元を設定したり(1年 p.72,73)、「読書活動」の単元では、本の紹介や人物について調べる活動を取り入れたりしている。(1年 p.68,69)</p>	<p>・当該学年と、下学年の漢字の練習問題を掲載し、家庭学習に活用できるよう工夫している。(1年 p.235~246)</p> <p>・漢字の復習ページ「漢字を確認しよう」を適宜設けている。(1年 p.32)</p> <p>・文法では、下学年の学習事項が2ページにまとめられており、復習しやすくなっている。(2年 p.218)</p>	<p>・脚注に新出漢字と重要な語句や類義語等を載せ、語彙を増やす工夫をしている。(1年 p.28)</p> <p>・小学校6年で学んだ漢字一覧表を手書きに近い書体で表記している。(1年 p.239)</p>	<p>・「季節のしおり」を適宜配置し、季節感のある詩歌や関連する絵画を掲載し、言語感覚を養うための工夫をしている。</p> <p>・各領域を関連づけて学習できるように単元の構成を工夫している。</p> <p>・「次につなげよう」には、学習の振り返りの項目が挙げられている。言語教材では、日常や多領域に生かすポイントも示されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

書 写 No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫	6. その他	
A	<p>・1年用は48ページ、2・3年用は60ページである。</p> <p>・1年では主たる毛筆教材が7点、硬筆教材が5点、2・3年では主たる毛筆教材が7点、硬筆教材が4点である。</p> <p>・硬筆教材では比較的長い文章も取り上げ、書写力の向上を図る配慮が見られる。(1年 p.47, 2・3年 p.24, 49)</p>	<p>・教材ごとに3段階の「学習の進め方」と「学習を振り返って」の構成となっており、自己評価まで見通しをもって学習に取り組めるように工夫されている。</p> <p>・単元「生活に広げよう」では、硬筆・毛筆での学習を日常生活の中で生かしていくための活動が工夫されている。(1年 p.38, 2・3年 p.28, 46)</p>	<p>・写真や図版、イラストによる資料が豊富で、具体的なイメージをつかみながら学習に取り組めるような配慮が見られる。</p> <p>・楷書から行書そして仮名への変遷までを、ページ左上にパラパラ漫画で示し(1年「加」「女」、2・3年「波」「奈」)、文字への関心を高めるよう工夫されている。</p>	<p>・「原稿用紙の書き方」や「手紙の用語」など国語科の内容との関連や、数字とアルファベットの書き方やファクシミリ、電子メール、ノート等の書き方など、他教科や学校生活、社会生活との関連が図られており、学習や生活を支える書写の特性が踏まえられている。(1年 p.17,41 2・3年 p.36,42)</p>	<p>・巻末に「発展」として上学年や高校での学習内容が紹介されている。(1年 p.48, 2・3年 p.52)</p> <p>・手本教材を谷折りする工夫がされ、手本を隠し、自分で考えて書き、後に手本と自分の書いたものを比べて修正点に気づき、清書するといった、段階を追った学習ができるようになっている。(1年 p.5, 16)</p>	<p>・学習する文字やポイントを目次と並べて示したり、学習の段階を色分けしたりして、学習内容が一目で確認できるように工夫している。(1年 p.1)</p> <p>・巻末の漢字一覧表が毛筆で示されたり、色分けがされたりするなど、使いやすく編集されている。</p>	<p>・表紙には「風」(1年)「流」(2・3年)の5字体をイメージ写真とともに配置し、文字のイメージを効果的に印象づけている。</p> <p>・伝統文化としての書写の継承が図られるように、漢字や書の歴史についての資料が多く掲載されている。(1年裏表紙口絵, 2・3年口絵 p.50)</p>
B	<p>・1年用は49ページ、2・3年用は74ページである。</p> <p>・1年では主たる毛筆教材が10点、硬筆教材が8点あり、2・3年では主たる毛筆教材が11点、硬筆教材が10点である。</p> <p>・硬筆教材は文字単体のものを中心に、基礎・基本をおさえるための配慮がなされている。</p>	<p>・1, 2年生では学習課題一つごとに毛筆教材一つとし、同時に硬筆によって学習事項の練習、整理を行うように構成されている。(1年 p.6~7)</p> <p>・2年と3年の内容を分けて提示し、前学年の内容の確認と応用を段階的に積み重ねた構成となっている。(2・3年 p.1,43)</p>	<p>・1年では「手書き文字」、3年では「自分の言葉による作品」の学習が設定され、書写の楽しさを味わうとともに興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年 p.34, 2・3年 p.54)</p> <p>・表紙絵は伝統文化の浮世絵を用いた芸術性の高い資料、裏表紙口絵は文字の文化や歴史について興味・関心を高める資料が配置されている。</p>	<p>・資料や図版、イラスト等を必要最小限におさえ、実際に書いて確かめる活動を多くして、技能をしっかりと身につけられるような配慮が見られる。</p> <p>・文字の組み立ての学習では部首名や部首についての知識もあわせて学習できるように工夫されている。(2・3年 p.27,29,31)</p>	<p>・書体の移り変わりや漢字の成り立ちの学習にあわせ、書体字典が紹介されており、文字の世界の奥深さに触れさせるよう工夫されている。(2・3年 p.62)</p> <p>・3年の発展学習単元「古典の文字から学ぼう」では臨書や集字が取り上げられ、高校での芸術科書道との接続に配慮されている。(2・3年 p.48~49)</p>	<p>・右ページを単元の始まりのページとして統一し、大きく見出しを示して学習内容を意識させる工夫がなされている。(全巻共通)</p> <p>・巻末の漢字一覧表は五十音順に配列し、楷書と行書を対応させる形でまとめられている。(全巻共通)</p>	<p>・毛筆での学習を中心として、硬筆は毛筆で学んだ基本的事項を整理し、知識・理解を深めるための教材という位置づけがなされている。(1年 p.6)</p> <p>・1, 2年では特に基礎的・基本的技能及び知識の習得に重点がおかれ、3年では生活に生かすという面で楽しく学習することに重点がおかれている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

書 写 No.2

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)	
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫		6. その他
E	<p>・全学年合冊の96ページで、1, 2年生では基礎的知識・技能の習得, 3年生では既習事項の活用という構成である。</p> <p>・1年では主たる毛筆教材が6点, 硬筆教材が5点, 2, 3年では主たる毛筆教材が6点, 硬筆教材が7点であり, 少ない教材数で一つの課題に時間をかけて学習できるように配慮されている。</p>	<p>・字形・配置・筆順・行書の特徴など基礎的・基本的事項について, 毛筆教材での学習を中心として定着を図る配慮が見られる。また, 漢字教材が多く取り上げられている。</p> <p>・半紙大の手本を多く取り入れて, 学習の手助けとなるよう工夫されている。(p.8~9)</p>	<p>・専門家による手本だけでなく, 生徒の作品も掲載し, 書写に対する興味・関心を高める工夫がなされている。(p.64,65)</p> <p>・コラム「書写の窓」が3か所と教材ごとのポイントが示され, 知識の獲得や学習目標の達成のための有効な手立てとなっている。(p.15,19,33)</p>	<p>・「総合的な学習の時間」などに活用しやすいように, 巻末に「書写便利図鑑」が設けられており, 手紙の書き方など, 生活の中に生かせる資料が示されている。(p.69~96)</p> <p>・硬筆教材に古典の文章や詩, 名作の一節が取り上げられ, 国語学習との関連が図られている。(p.24,58,60)</p>	<p>・各単元の終わりの部分に「書いてみよう」というページが設定され, 各々の目標に沿った課題が適切に示され, 有効な学習ができるようになっていく。(p.16等)</p> <p>・「書けたらダルマに目を書き入れよう」というコーナーを設け, 評価の観点を示して自主的に学習に取り組めるよう工夫されている。(p.15等)</p>	<p>・「自分の印を作ろう」では篆刻の作り方の過程が詳しく示され, 様々な字形の美しさに触れ, 文字全般についての興味・関心を喚起できるところになっている。</p> <p>また, 発展学習として自分で取り組める内容ともなっている。(p.78,79)</p>	<p>・単元ごとに扉のページが設けられ, 学習への見通しや心構えをもてるよう工夫されている。また, 課題語句に対するイメージを膨らませるために, 毛筆文字とともにその言葉に適した風景写真が用いられている。(p.7,17等)</p>
F	<p>・1年用は56ページ, 2, 3年用は60ページである。</p> <p>・1年では主たる毛筆教材が6点, 硬筆教材が8点, 2, 3年では主たる毛筆教材が5点, 硬筆教材が9点であり, 硬筆学習に重点が置かれている。</p> <p>・練習教材を少なくし, 考えたり話し合ったりする教材を多く取り上げている。</p>	<p>・課題解決的な学習が進められるように, 手本教材は後半にまとめて掲載するなど, 教材の配列に工夫が見られる。</p> <p>(1年 p.22~36, 2・3年 p.26~38)</p> <p>・行書の学習では, 速く書くことを意識させるために, 制限時間を設定して書く教材が取り入れられている。(1年 p.14)</p>	<p>・詩歌の碑, チラシや商標, 世界の文字など, 生活の中に生きる文字への関心を高めるよう工夫されている。(1年 p.40, 2・3年 p.18,19)</p> <p>・各単元末の「学習を生かそう」では, 学習事項を生かして自分で考えて書くように工夫してあり, 学習意欲を高めるよう配慮されている。</p>	<p>・必要な資料は「資料編」として巻末に掲載し, 文字の歴史や知識, 表現の効果, 書式など, 学習を進めるうえで使いやすく工夫してある。</p> <p>(1年 p.38~44, 2・3年 p.40~51)</p> <p>・「レポートの書き方」「メモのとり方」「レイアウト」など他教科の学習に生かせる資料が取り上げられている。(1年 p.44, 2・3年 p.50)</p>	<p>・「考えよう・話し合おう」「気付いたことをまとめよう」という学習過程を設け, 自分で課題を見つけて学習に取り組めるよう工夫されている。(1年 p.4等)</p> <p>・素材の工夫や名前のデザインなどを発展課題として取り上げ, 文字環境を整えること, 文字で伝え合うことが意識できるよう配慮されている。(2・3年 p.42,43)</p>	<p>・直接書き込むワークブック形式で編集されており, 生徒の学習への抵抗感を取り除く工夫がなされている。</p> <p>(1年 p.4等)</p> <p>・「本の帯をつくらう」など, 文字の表現力が実感でき, 学習意欲を高める教材が設定されている。(2・3年 p.20)</p>	<p>・硬筆で基礎・基本をおさえ, 毛筆はその定着を図るものとして位置づけられている。また, 一貫して課題解決的な学習が行えるように工夫してある。</p> <p>・様々な場面で文字を書く世界の人の写真によって, 文字を書いて伝えることで自分の世界が広がることを示している。(全巻口絵)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

書 写 No.3

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)	
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫		6. その他
G	<p>・1年用は56ページ、2、3年用は64ページである。</p> <p>・1年では主たる毛筆教材が7点、硬筆教材が6点あり、2、3年では主たる毛筆教材が8点、硬筆教材が7点である。</p> <p>・古典作品の書写においては使用機会の少ない漢字について筆順を取り出して示す配慮が見られる。(2・3年 p.23)</p>	<p>・全学年において、毛筆で字形や筆脈等の基礎・基本をおさえ、硬筆で知識・理解面の整理と応用を行っている。さらに「1年間の学習のまとめ」を毛筆で行い、学習事項の定着を図る構成になっている。</p> <p>・教材ごとに、学習を振り返り、自己評価ができるように配慮されている。(1年 p.9)</p>	<p>・文字を書く道具である「文房四宝(筆・墨・硯・紙)」について原料や製作過程が写真と解説で示され、文字文化への理解を深める手立てとなっている。</p> <p>(1年 p.14,15)</p> <p>・3年「学習の成果を生かそう」ではA～Cの選択課題が用意されており、生徒が興味をもって学習に取り組めるような配慮が見られる。</p>	<p>・「あの人が残した文字」では、実際に歴史上の人物の肉筆を見ることで、文字の価値や美しさについて考えられるようになっている。</p> <p>(2・3年口絵)</p> <p>・1年は「竹取物語」、2年は「枕草子」「平家物語」、3年は「おくのほそ道」を取り上げ、音読してから書くようにするなど国語学習との関連が意識されている。</p>	<p>・1年生用、2・3年生用ともに巻末に上学年、高校や社会生活における書写学習の内容や様子を紹介し、書写学習を発展させるための配慮がなされている。</p> <p>・「試し書き」や「まとめ書き」が設定されており、自ら進んで学習活動に取り組めるようになっている。</p> <p>(2・3年 p.7)</p>	<p>・見通しをもって学習できるように書写学習の樹形図が示されている。</p> <p>・硬筆手本の字が大きく、余白も十分で見やすい紙面構成となっている。</p> <p>・巻末の漢字一覧表は部首ごとにまとめられており、字形を学びやすくしている。</p>	<p>・1年生用、2・3年生用ともに一つの教材には詩が取り上げられ、言葉の美しさとともに手書き文字の美しさを味わえるように工夫されている。(1年 p.2, 2・3年用 p.2)</p> <p>・まとめの教材や補充教材を含め、毛筆教材が豊富で、毛筆による基礎・基本の学習の充実が図られている。</p>
J	<p>・全学年合冊で120ページである。1年では主たる毛筆教材が5点、硬筆教材が3点、2、3年では主たる毛筆教材が5点、硬筆教材が1点である。</p> <p>・教材が必要最小限にまとめられ、ゆとりをもって学習ができ、生活の中での文字の生かし方について考えられるように配慮されている。</p>	<p>・行書の特徴について「変化・丸み・連続」「部首」「知って得する行書のルール」に分けて示し、知識・理解を深める工夫がなされている。(p.32,44,49)</p> <p>・ポップ・ステップ・ジャンプ・「広げよう」という構成で、学習の見通しから習得、活用まで無理なく学習できるように配慮されている。</p>	<p>・写真、図版、イラストを多く用い、生徒が作品制作に具体的なイメージをもって取り組めたり、市場など身の回りで使われている文字の効果に気付いたりできるような工夫がなされている。(p.66・67)</p> <p>・「ジャンプ」では実用的な作品づくりによって、意欲を高めるよう工夫されている。(p.18等)</p>	<p>・筆記具の使い分けや数字とアルファベットを取り上げ、学習の基礎としての書写力を身につけるよう工夫されている。(p.18,19)</p> <p>・手紙のノート書き方など国語や他教科の学習、日常生活に生かすための視点を「資料」として巻末に掲載し、3年間を通して学習に生かすことができるよう、配慮されている。(p.81～)</p>	<p>・発展学習として古典を見習って書く「臨書」への挑戦が取り上げられるなど、高校での芸術科書道への接続についての配慮が見られる。(p.78～79)</p> <p>・なぞり書きや練習欄が豊富で、自学自習への細やかな配慮がなされている。(p.14,15等)</p>	<p>・ポイントを明るい黄色で示したり「ジャンプ」「広げよう」の作品例は淡色を用いて見やすくしたりするなど、色遣いが工夫されている。(p.18,19)</p> <p>・巻末の漢字一覧表は小・中学校別に楷書と行書が併記され、使いやすさに配慮されている。</p>	<p>・俳句や古典作品、「漢字ワンダーランド」「仮名の誕生物語」など伝統文化に配慮した教材が取り上げられている。(p.3,38等)</p> <p>・「昔の人が書いた文字を見よう」では臨書の手本として先人の価値の高い作品が選択されており、美意識を高める配慮がなされている。(p.78,79)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科 (地理的分野 No.1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫	6. その他	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・精選された内容で、生徒の発達段階に適した分量、程度になっている。 ・基礎的・基本的内容を重視した構成となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地理スキルアップ」を設定し、学習に必要な資料活用の技能が段階を追って身に付けられる構成になっている。(p.9等) ・見開きに1つずつ学習を深めるのに適した活動や作業、学習内容を確認するための課題を載せている。(p.13等) ・学習の振り返りができるように、章末にまとめのページを置いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地理にアクセス」で生徒が興味を示しそうなさまざまな話題を紹介している。(p.11等) ・地域に暮らす人々の声を紹介している。(p.23等) ・「一口エピソード」でフォッサマグナと文化の違いなど生徒が興味を示しそうな話題を紹介している。(p.128等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹島を写真入りで扱い、「固有の領土」と記述している。(p.117) ・中国地方については都市と農村の変化を中心に扱っている。また、交通の発達により島根県西部と広島結び付きが強まったことを紹介している。(p.178) ・「地理にアクセス」の中で市町村合併の例として雲南市を取り上げている。(p.177) 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的内容として大陸移動説を扱っている。(p.127) ・自主的に学習を深める手立てとして、世界の諸地域の各州の学習の最後に、「自由研究」や「深めよう」のページを置いている。(p.40,41,72等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・A B版となり写真などの資料が大きく掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的内容を重視した適切な分量、程度であり、1時間ごとの課題が示されていたり、A B版で資料が大きく掲載されていたりするなどの工夫がされている。 ・様々なエピソードの紹介の他に、地域に暮らす人々の声を紹介するなど生徒に共感させながら関心を高める工夫がされている。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教と社会のかかわりを取り上げ、パレスチナ問題や原理主義など、高度な内容を取扱っている。(p.31) ・アジアは中国を中心に扱い、調べ学習の例としてインドを取り扱っている。(p.36~41,108~113) 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの地域の学習の最後に、南北問題、環境問題などの世界的な課題や日本の課題を考えるページを設けている。(p.49等) ・それぞれの時間の学習課題を明示するとともに、「トライ」で各時間の学習活動を示している。(p.7等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地理の窓」を設け、関連する話題を提供している。(p.11等) ・2編3章では学習の最初に写真のページを設けている。(p.155等) ・衛星写真や様々な地図を並べて掲載している。(p.117~120) ・印象的な写真が効果的に使われている。(p.49等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹島を写真入りで扱い、「固有の領土」と記述している。(p.125) ・築地松、武家屋敷などが写真で紹介されている。(p.127,155) ・石見空港を例に、地方空港の課題を紹介している。(p.177) ・中国地方は人口を中心に取扱っており、過疎化対策として石見銀山を利用した観光開発を紹介している。(p.172) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読み解こう」で資料活用のヒントを与え、考えを深めさせる工夫がされている。(p.27等) ・発展的な内容として、地震とプレートの関係を扱っている。(p.133) 	<ul style="list-style-type: none"> ・とびらのページに点字が使われている。(p.1) ・米南部共同市場(メルコスール)など新しい言葉が太字で強調して表示されている。(p.94) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい語句が多く取り上げられ、詳しく学習できる内容になっている。 ・世界や日本の課題を考えさせることが意識されている。 ・主題性のある印象的な写真が多く掲載されている。

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科 (地理的分野 No.2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫	6. その他	
K	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的な見方や考え方を重視した内容になっており、分量も生徒の発達段階に適している。 ・日本の諸地域では、都市圏の過疎化（関東地方）など、これまでとは異なる視点の内容が扱われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本の底力」、「地域の底力」を置き明るい展望をもたせる工夫がされている。(p.56等) ・1編3章は州を概観してから視点を考える構成になっている。 ・「あなたならどうする」という生徒の思考を促すページが設定されている。(p.178等) ・書き込みながら学習するページが設定されている。(p.15等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・その土地に住む人や働いている人の具体的な話が多く紹介されている。(p.46等) ・1編2章には、「人」の生活の様子の写真が掲載されている。(p.16,17等) ・国名しりとり歌、プロ野球のキャンプや旭山動物園の写真などが掲載されている。(p.9,167,256) 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹島を「固有の領土」と記述している。(p.125) ・中国地方を他地域との結びつきを視点に扱い、観光地として出雲大社、城下町松江、石見銀山、たたら製鉄の博物館を紹介している。(p.187) ・鳥取県内の東西の移動と東京への移動の時間という島根にも共通する課題が掲載されている。(p.163) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各時間に学習を振り返る課題と自学で深める課題が示されている。(p.17) ・地理学習に必要な基本的技能を身に付けるためのコーナーが設けられている。(p.11等) ・資料を読み取るポイントが示されている。(p.21等) ・「さらに深めよう」で発展的な内容を取り扱っている。(p.100等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・用語の解説を同じページ内に設定している。(p.11等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な内容で構成されている。地理的な見方が重視され、これまでとは異なる視点から地域の学習が扱われている。また、将来に明るい展望を持たせるよう工夫されている。 ・「人」の話や写真が多く、共感的に人々の暮らしをとらえさせる工夫がなされている。
O	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本内容を重視している。 ・2編2章に環境問題のページを設けたり、1編3章の各州に「環境+α」を設けたりするなど環境を大きく扱っている。(p.49,172,173) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1編3章ではアジアをくわしく扱っている。(p.38~53) ・各州の学習の最後に「日本とつながる」を設け、関係を意識させている。(p.54等) ・2編3章は「日本の地方のようす」を北から順に扱っている。近畿地方を詳しく扱っている。(p.234~249) ・景観写真が掲載されている。(p.184等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1編2章では、半分以上のスペースに写真を掲載し、生徒の関心を喚起しようとしている。 ・「世界のいま」、「日本のいま」などのコラムでさまざまな話題を紹介している。(p.45,189等) ・世界、日本の諸地域の学習では、最初に概観するページを設け、写真を載せている。(p.184等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹島の写真を掲載し、本文中に太字で表記している。(p.123) ・中国地方は人口を中心扱い過疎地域の暮らしを守る努力として、浜田市を走る県からの支援で更新された鉄道車両を写真で紹介している。(p.255) ・高齢化の推移を示すグラフを掲載している。(p.254) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自学自習の手立てとして、各ページに学習課題や学習活動、まとめの問いを設けている。(p.24, 25等) ・「地理ズームイン」でバーチャルウォーター、ゲリラ豪雨など新しい事象を紹介している。(p.102,104,148) ・学習を深め、自学の助けとなる施設を紹介している。(p.36等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・用語の解説を同じページ内に設定している。(p.5等) ・ページ数が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的内容を重視している。環境問題を大きく扱い、詳しい記述がされている。 ・コラムやページ構成を工夫し、生徒の関心を高めようとしている。また、博物館の紹介など生涯学習につながる記述がある。

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科 (歴史的分野 No.1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
A	<ul style="list-style-type: none"> 読みやすいようにワイド版で, ふりがなはゴシック体が使用されている。(p.20等) 理解が難しい言葉については, そのページの中で用語解説がなされている。(p.21等) 本文の内容を理解できるよう, 多くの資料が効果的に用いられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各章の初めに資料と年表, 終わりには振り返りの課題が掲載されている。(p.17,56等) 生徒が学習課題をつかめるようにタイトルの横に示してあり, 学習内容を確認したり, さらに深めたりする課題は見開きページの最後に表示されている。(p.20,21等) 	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産, 国宝のマークが記載されている。(p.35等) ワイド版で写真が大きい。 歴史学習の導入として第1章に歴史の基本的な見方や調べ学習の方法などが書かれている。 学習課題をキャラクターの吹き出しで提示している。(p.5,23等) 時代のまとめ方が具体的に提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産として石見銀山が掲載されている。(巻頭) 歴史資料が要約されているところがある。(p.31等) 図書館やインターネットの利用の仕方などがスキルアップとして各章に掲載されている。 各章にある「深めよう」は現代の課題とのつながりが意識されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的学習のために各章末に「深めよう」が設けられ, 人権や環境問題等を挙げ公民的分野との関連が図られている。(p.178)等 各章の巻末には各時代の特色をとらえるまとめ方を紹介したページと年表や地図を活用した振り返りのページがあり, 自主学習できるよう工夫されている。(p.55,56等) 	<ul style="list-style-type: none"> 章末の振り返りでまとめた年表が次の章の年表とつながるようにレイアウトされており, 時代の流れを意識させる編集となっている。(p.56,57等) 色使いやレイアウトに一貫性があり読みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 一貫性のある編集で, 單元ごとに整然としている。特に近現代史では人々の様子を撮影した写真を多用し, 人の営みとしての歴史を学ばせる工夫がなされている。(p.192,210等)
G	<ul style="list-style-type: none"> 語句の注釈は簡潔で, 発展的な内容も含まれている。(p.30等) 本文の内容を理解できるよう, 多くの資料を効果的に用いてある。 文章表現が平易で生徒の発達段階に即している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各章の初めに時代の象徴的な資料と年表, 終わりに「学習のまとめと表現」が掲載されている。 見開きのタイトル部分には, その学習する年代(世紀)と学習課題が記載されており, 右下には時代をとらえるための課題が設けてあり, 言語活動と結びついている。(p.14,15等) 近現代史が総ページ数の半分を占めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各節のタイトルが特徴的で, 学習内容のポイントもあり, 生徒が関心をもちやすいように示してある。(p.38等) 学習課題をキャラクターの吹き出しを用いて提示している。(p.10等) 特設ページが豊富で生徒が関心をもって読むことができる。(p.24,25等) 	<ul style="list-style-type: none"> 人物と資料から歴史を深めようとするように工夫されている。 石見銀山のコラムがある。(p.90) 「歴史の窓」に領土問題として竹島が取り上げられている。(p.251) 章の終わりの資料と章の始まりの資料に統一性があり, 時代の流れをつかませる工夫がある。(p.82~83等) 	<ul style="list-style-type: none"> 章末3ページを「学習のまとめと表現」とし, 語群から語を選び年表を完成させるなどの工夫や, 学習のまとめ方として歴史新聞やミニレポートが紹介されている。(p.44~46等) 各章にあるテーマ学習の中で, 授業に関連した人物や出来事がより詳しく紹介されている。(p.78等) 	<ul style="list-style-type: none"> 節のタイトルの囲みに年表が付いており, どの時代の学習をするか明確にされている。(p.38等) 小学校で学んだ人物と中学校の学習で新しく出てくる人物の枠の色を変えている。(p.66,67等) 	<ul style="list-style-type: none"> 節のタイトルが工夫されていて, 生徒の学習の動機づけになっている。また, 導入資料とタイトルが一致しているところが多い(p.114等) 「読み解こう」で資料の見方が記述してあるので, 生徒が自ら学習するポイントがわかりやすい。(p.37等)

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科 (歴史的分野 No.2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
I	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の注釈は最低限度にとどめられている。 ・資料等はわかりやすく現代語で書かれている。(p.97等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・見開きに, 本時の課題とまとめの課題が掲載されている。(p.10,11等) ・各章ごとに整理してまとめるためのページが設けられている。(p.56等) ・世界と日本の関係を理解しやすいように, 地図が多用されている。(p.20,21等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各節に基本的な学習課題が明記されている。 ・年表づくりなどの作業的な学習がある。(p.6) ・絵画資料を用いて時代の特色をつかむことができるように工夫されている。(p.22等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「深める歴史」生徒が関心をもつようなコラムが文章記述されている。(p.12等) ・「深める歴史」で出雲の阿国を取り上げ, 中世の文化や社会について説明している。(p.107) ・出雲国風土記の神話と伝承の記述がある。(p.44,45) ・荒神谷のイラストがある。(p.23) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各章ごとに, 時代に即した発展的な内容が詳しく資料とともに記述されている。(p.85等) ・各章の章末1ページは年表を用いたまとめとなっており, 時代を大きくつかむための設問が出雲国風土記の神話と伝承の記述がある。(p.56等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターなどのイラストが最小限に抑えてあり, すっきりとした構成になっている。 ・巻末に衣・食・住などの生活の様子をイラストや資料で年表にまとめたものが掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代史の記述が多く, 詳しく説明されている。 ・世界史との関連を重視した項目が多く, 歴史の流れに沿って説明されている。(p.92~95)
K	<ul style="list-style-type: none"> ・理解が難しい言葉については, そのページの中で用語解説がなされている。(p.62等) ・本文の内容に即した写真や図が効果的に使用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見開きの初めに, 学習課題が, 終わりに, まとめの課題が設定されている。(p.8,9等) ・各部ごとに学習のまとめるためのページが設けられている。(p.42,43等) ・「技能をみがく」で歴史的スキルを段階的に学ぶ工夫がされている。(p.43等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史に挑戦」で生徒の関心を高め, 追求しようとする態度を育てようとしている。(p.20等) ・「タイムトラベル」の想像図が全章にあり, 同時代的に歴史を見ようとしている。(p.16,17等) ・人物索引が最初にある。 ・各節の導入資料に工夫があり, キャラクターの発問も広がりがある。(p.8等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県の記述が随所に見られる。(墳丘墓, 荒神谷遺跡, 出雲神話, 風土記, 阿国, たたら製鉄, 石見銀山など)(巻頭等) ・地理, 公民との関連を意識したコラムがある。(p.44等) ・地域調査の方法がまとめて記述されている。(p.251~262) ・竹島が日本の領土であることを示した地図がある。(p.235) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史の舞台」(p.116,117等)「歴史に挑戦」が設けられ, 資料を活用し課題解決を図る発展学習ができるようになっており歴史事象を様々な角度から考察できる内容である。 ・各部の末には学習のまとめがあり, 基礎基本の確認, 思考力を問う設問があり, 個に応じた自学自習ができるよう工夫してある。(p.42,43等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料が豊富で, それぞれの資料から読み取ることを重視した構成となっている。 ・1時間の授業のまとめとして「チェック&トライ」があり, 基礎的な問いと発展的な問いがある。(p.19等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部にある「タイムトラベル」の歴史想像図は, 生徒が時代や人々の生活や社会の様子を, 豊かにイメージすることができる。(p.16,17等) ・一貫して課題解決型の教科書となっている。特に「歴史に挑戦」では, 歴史学習のおもしろさや追究したくなる課題が提示されている。(p.100等)

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科 (歴史的分野 No.3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
O	<p>・注釈に加えて「豆知識」「キーワード」で歴史用語や語句を詳しく説明している。(p.35,37等)</p> <p>・本文の内容に即した写真や図版が精選して掲載されている。</p>	<p>・各編の巻頭には4ページにわたって, 資料・図版・年表・歴史地図で時代を概観している。・見開きに時代・世紀がわかるスケールが記載されている。(p.14~17等)</p> <p>・1時間の学習活動が明確になるように, 見開きの初めには, 学習課題が, 終わりには, 学習課題の確かめが設定されている。(p.18,19等)</p>	<p>・歴史学習の切り口を巻頭で紹介している。</p> <p>・教科書の使い方を説明している。(p.4,5)</p> <p>・各章の初めのページに時代の特徴的な資料を選定している。(p.58,59等)</p>	<p>・各章ごとに地域学習の特設ページがある。</p> <p>・「歴史の転換」のコーナーが各章ごとにあり, 時代を大観させようとする工夫がみられる。(p.68~69)</p> <p>・松江藩の専売, 出雲の阿国, 鷲舞を資料として掲載している。 (p.89,111,159,)</p> <p>・玉作湯神社, 揖屋神社を渡来人と関連して表記している。(p.55)</p>	<p>・発展的学習として「歴史を掘り下げる」「先人に学ぶ」があり, 詳しい内容が提示してある。 (p.54,55,86等)</p> <p>・編末には各時代の特色を年表や地図を活用してまとめ, 自主学習を進めるページがある。 (p.56,57等)</p>	<p>・見開きでの図版が多く使用されており, 資料の読み取りができるよう工夫されている。 (p.58,59等)</p> <p>・肖像画や写真が多く用いられ, 人物への興味・関心をもたせる工夫がされている。(p.137~140等)</p>	<p>・各編の巻頭は資料が工夫されている。(p.94,95等)</p> <p>・巻末年表では, 文化と歴史との関係がわかりやすく記載されている</p> <p>・歴史の流れに沿って, 説明している。</p>
Q	<p>・歴史の流れに沿ってコラムや資料, 図版が豊富に用いられている。</p> <p>・抽象的な用語や難解な言葉については「歴史の言葉」で解説されている。(p.37等)</p>	<p>・各章のはじめにはその時代に関係の深い絵や写真と課題が, キャラクターの吹き出しで語られている。(p.25等)</p> <p>・国の始まりを神話の記述から学ぶ教材が取り上げられている。 (p.42,43)</p> <p>・天皇に関する記述が多い。(p.76等)</p>	<p>・巻頭の「歴史を学ぶとは」で, 歴史を学ぶ意義を述べている。</p> <p>・見開きのタイトルの下に学習課題が示され, 右下の「ここがポイント」にその答え等が示されている。(p.34,35等)</p> <p>・コラムに仏像の見方が詳しく取り上げられている。(p.72,73)</p>	<p>・コラム「国譲り神話と古代人」では, 大国主神や出雲大社が取り上げられ, 加茂岩倉遺跡出土の銅鐸の写真が掲載されている。(p.44,45)</p> <p>・出雲の阿国が記述されている。(p.119)</p> <p>・各章の終わりのページには「歴史豆辞典」として, 100字程度の用語解説と, 言葉の意味を100字でまとめる課題が示されている。(p.78等)</p>	<p>・各章のまとめは姉妹, 兄弟の問答形式が取り入れられるとともに, 比較等により, 思考力を問う課題や, 意見交換会の課題が示されている。 (p.77)</p> <p>・長文のコラムは「もっと知りたい」「外の目から見た日本」「人物クローズアップ」などがあり章末に記載されている。 (p.84,85,116,131等)</p>	<p>・キャラクターのイラストは序章と各章の初めとまとめのみに使用され, すっきりとした構成になっている。</p> <p>・図版より文章による表現を重視している。</p> <p>・見開きのタイトルに付された番号は全巻を通したものである。(目次)</p>	<p>・日本人の信仰や考え方, 歴史上のできごとや人物の功績等についての記述から, 日本の伝統や文化について学ばせる工夫がされている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科 (歴史的分野 No.4)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
R	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史用語が多用され, 詳しい内容になっている。 ・1時間の授業を概ね見開きでまとめている。(p.18,19等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の学習の方法について巻頭にまとめて記述している。(p.8~11) ・見開きの初めには, 学習課題が示されている。(p.20等) ・各章のまとめでは, 人物, 出来事を問う課題が掲載されている。(p.60等) ・人物の生き方, 考え方に関する記述が多く掲載されている。(p.184等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の学び方について巻頭でまとめている。 ・各章に歴史絵巻があり, 時代を大観できるようにしている。またイラストを多用し, 生徒が関心をもつように工夫している。(p.15等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読み物コラム」が多く, 歴史を深く学ぶ工夫がされている。(p.55等) ・絵画資料より, 文章資料に力点が置かれた構成である。 ・「読み物コラム神話に見る歴史の誕生の物語」で出雲神話, 出雲大社を取り上げている。(p.46,47) 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な学習のために, 各章に2~5の「読み物コラム」「人物コラム」が設けられている。(p.51等) ・内容が詳しく, 日本の文化や伝統を重んじるテーマが多くみられる。(巻頭ページなど) ・各章末には年表を使ったまとめ, 時代の特色をつかむための課題が提示されており, 自学自習がしやすくなっている。(p.60等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に図版はサンプルで文章表現が多い。 ・各章の巻頭に船舶の写真を用い, 時代の移り変わりをつかませる工夫がさかまされている。(p.63等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・古代の日本文化が詳しく取り上げられ, 読み物資料も多く, 深い知識が得られる。(巻頭ページ) ・イラストなどの配置が工夫され, 歴史上の人物の生き方や考え方が多く記述されている。(p.134,135等)

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科 (公民的分野 No.1)

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)	
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫		6. その他
A	<ul style="list-style-type: none"> ・図表, 写真等の資料が大きく, 本文も平易な表現で簡潔にまとめている。 ・章ごとに色遣いが変えられており, 学習内容のまとまりを把握しやすい。 ・学習内容が精選され, 発展的学習等に充てる時間が十分確保できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ページの資料や写真と本文のレイアウトが統一され, 使いやすく工夫されている。 ・対立と合意, 効率と公正の学習では, 「マンガトラブル」などを使い, 問題解決への見方や考え方の提示が工夫されている。(p.22~29) ・「日本文化の多様性の学習」では, 地理的分野の学習との関連が図られている。(p.18) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各章の導入に「ちがいのちがい」, 「市長になって考えてみよう」, 「コンビニの経営者になってみよう」などの作業やシミュレーションを設定し, 興味・関心を高める工夫がされている。(p.32,64,106) ・偶数ページに吹き出しで, 内容の導入に関わる事柄を疑問形の形で表し, 授業導入の工夫がされている。(p.136等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「公民にアクセス」で, 「竹島は島根県隠岐の島町に属する日本固有の領土」と明記され, 地図上にも記載されている。北方領土, 尖閣諸島も同様に扱われている。(p.151) ・原子力発電の利点と課題について記述している。(p.167) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「終章」としてこれまでの学習を踏まえた「持続可能な社会」をテーマとする課題追究とレポート作成に関する学習課題が設定されている。(p.175~183) ・奇数ページの下部に, 一単位時間終了後のまとめができるように課題が設けてあり, 生徒が自主学習を進められるように工夫されている。(p.137等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書がAB判になっており, 図表や写真が見やすくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見開きごとの学習課題と学習の振り返りが掲載されており, 学習事項の定着と学習の発展につながる内容と構成になっている。(p.12等)
G	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の文章が多く, 詳細な説明がされている。 ・基礎的・基本的な事項の確認がしやすい内容である。 ・本文中の重要語句には番号を付け, 解説文や写真, グラフの番号と結びつけて生徒が理解しやすく工夫されている。(p.66等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働と社会保障を第5章として独立させ, 生徒が現代日本の課題として認識できる構成となっている。(p.156~165) ・新設の「現代社会をとらえる見方や考え方」では, 対立と合意, 効率と公正について公園利用のルール作りを通して考える構成となっている。(p.24,25) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各章のはじめに手塚治虫, キング牧師, 坂本龍一などの言葉を取り上げ, 学習の導入としている。(p.5,71,179) ・「公民の窓」コーナーを多く設け, 事例を紹介することで, 興味・関心をもちながら学習が進められるよう工夫されている。(p.51,87等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「公民の窓」で竹島問題が「韓国と未解決の問題」として紹介されている。(p.195) ・原子力発電の利点と課題について記述している。(p.184) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の集大成として, 「持続可能な未来へ」というテーマで, 「未来へのわたしの約束」というレポート作成し, 学習を深める工夫がされている。(p.206~211) ・章末に「学習のまとめと表現」のページを設け, その章の学習のポイントを整理できるよう工夫されている。(p.176等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・点字で「公民」等と記載してあり, 点字を生徒に身近なものにしていこうという配慮がみられる。(p.1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・識字学級を掲載するなど, 人権意識を高める内容が, 随所に見られる。(p.54)

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科 (公民的分野 No.2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
I	<ul style="list-style-type: none"> 本文の文章によって, 詳細な説明がなされている。 学習内容が精選されており, 発展的学習等に充てる時間を十分に取ることができる。 巻末の憲法などの資料には, 生徒の発達段階に適したふりがなや注釈がつけられている。(p.182~213) 	<ul style="list-style-type: none"> 「公民ファイル」として18か所にわたり資料や具体的な事例, 課題提示の場を設定している。(p.40等) 用語解説を同じページに掲載し, 生徒が理解しやすい構成になっている。(p.80等) 	<ul style="list-style-type: none"> 各編の最初に著名人の言葉を挙げ, 生徒の興味・関心を高める工夫がされている。(p.7,23,93等) 対立から合意への学習で, 生徒にとって身近な合唱曲決定を題材として取り上げている。(p.18,19) 	<ul style="list-style-type: none"> 「主権国家」の単元で, 竹島問題を「日本の固有の領土であるが, 領有権を主張する韓国が島を占拠している」として, 北方領土, 尖閣諸島とともに記述している。(p.157) 原子力発電の利点と問題点について本文中に記述している。(p.169) 	<ul style="list-style-type: none"> 最終の「公民ファイル」で, 「卒業論文」を作成する課題を追究する学習を設定している。(p.180,181) 「公民ファイル」で, 実際の訴訟や課題解決の事例を挙げ, 発展的学習の手がかりとなるよう工夫されている。(p.72, 150等) 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな情報や学習形態を「公民ファイル」にまとめて記載してある。(p.34等) 	<ul style="list-style-type: none"> 導入に詩や著名人の言葉を扱うことによって, 生徒の心を揺さぶる工夫がされている。(p.7,23,93等)
K	<ul style="list-style-type: none"> 写真, 資料, 図などが多く使用され, 本文も簡潔にまとめられている。 キャラクターやイラストを用いたり, グラフの色を鮮明にし, 社会的事象を視覚的にとらえたりする工夫がされている。(p.65等) 一単元あたりの学習事項が多く, 情報が充実している。 	<ul style="list-style-type: none"> 政治についての学習では, 身近な地方自治を先に学習し, その後で国の政治を学習する単元構成になっている。 第1章では, 時代を対比する写真を使い, その時代と現在を比較して考察する工夫がされている。(p.6等) 	<ul style="list-style-type: none"> 各時の学習の導入に, 「クローズアップ」として現代社会における具体事例を大きく取り上げている。(p.52等) 巻頭の「明るい未来をめざして」では, 現代社会の課題の解決に向けて動きを掲載し, 意欲的に未来を切り拓こうとするように配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 領土問題は, 「今を見る」で北方領土が記述されており, 竹島は地図上に位置と名称が記載されている。(p.173) 原子力発電の利点と原子力発電所建設反対運動の存在を記述している。(p.198) 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元に2~3か所(計8か所)「持続可能な社会をめざして」として, 課題に対する小レポートを作成する作業を組み込んでいる。(p.56等) 第5部では, これまで作成した小レポートをもとに課題解決学習を設定している。(p.203~209) 	<ul style="list-style-type: none"> 「地理・歴史をふりかえる」を設け, 過去に学習したことを結びつけながら, 学習が進められるよう配慮がされている。(p.40等) 	<ul style="list-style-type: none"> 「クローズアップ」, 「今を聞く」, 「今を見る」の設定など, 授業の学習内容と社会生活が結びついていることを, 意識させる構成になっている。(p.126,127,131等)

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科 (公民的分野 No.3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
O	<p>・写真, 資料, 図などが多く使用され, 本文も簡潔にまとめられている。</p> <p>・学習内容が精選され, 発展的学習等に充てる時間が十分確保できる。</p> <p>・ふんだんにカラー印刷を取り入れ, 各章ごとに色分けされている。</p>	<p>・各編の始めに「〇〇ナビ」, 終わりに「学習の整理と活用」を設け, 生徒自身で学習の進め方, 理解の仕方がわかるよう工夫されている。(p.2,34等)</p> <p>・各編の終わりにまとめのページを設け, そこに教科書の関連ページを明示している。(p.34等)</p>	<p>・「チャレンジ公民」を各章に設け, 身近な課題を取り上げて, 様々な学習方法を提案し, 興味をもって学習を進めることができるよう工夫されている。(p.32等)</p> <p>・「現代社会をとらえる見方や考え方」の学習では, 漫画を活用して「対立と合意」「効率と公正」に興味をもたせる工夫がされている。(p.26~29)</p>	<p>・領土問題は, 北方領土が大きく取り上げられており, 竹島問題は「公民+α」で「韓国もその領有を主張している」と記述されるとともに, 地図上に位置と名称が記載されている。(p.183)</p> <p>・原子力発電については, 問題点を明記しながら, 温暖化防止の観点から実態を紹介している。(p.201)</p>	<p>・持続可能な社会を目指してをテーマに卒業論文レポートを作成し, 発展的学習へとつながるよう工夫がされている。(p.215~228)</p> <p>・「やってみよう」で体験的な学習を紹介し, 「公民ズームイン」では授業で学習したことの具体的事例を紹介して, 学習への理解が深まるよう工夫されている。(p.25,30,31等)</p>	<p>・バリアフリー社会の学習に関連して, 点字を紹介するなど, 生活に直接かかわる資料を掲載している。(p.52)</p>	<p>・今日的な人権課題を大きく扱っている。ネット社会の問題点を取り上げ, 情報モラルについても詳しく記述している。(p.62,63)</p>
Q	<p>・本文で詳細な説明がなされており, たくさんの事例や解説を通して学習できる。</p> <p>・序章の「もっと知りたい」で基本的な概念を分かりやすく解説することで, 公民的分野の学習のはじめを工夫している。(p.12~17)</p>	<p>・見開きのタイトルに付された番号が全巻を通してのものになっている。(目次)</p> <p>・随所に歴史的分野で学習した人物を登場させ, 学習内容との関連付けを図っている。(p.47等)</p>	<p>・「もっと知りたい」や「ミニ知識」で学習に関連した内容を解説することで, 興味・関心を高める工夫がされている。(p.118,121等)</p> <p>・学習を深めるために, 歴史上の人物や著名人を数多く取り上げている。(p.76,105等)</p>	<p>・竹島問題については, 本文で「わが国固有の領土」と記述し, 地図への記載に加えて「もっと知りたい」で解説し, 巻末に写真を掲載している。(p.145,149,巻末)</p> <p>・原子力発電については省エネルギーの観点から紹介されている。(p.173)</p> <p>・「もっと知りたい」で後鳥羽上皇を取り上げている。(p.48)</p>	<p>・各章ごとに「学習のまとめと発展」を設け, 学習内容の振り返りをするとともに, 長文で記述させる課題を設定し, 表現力の育成を図っている。(p.36等)</p> <p>・「もっと知りたい」を全編で20か所設け, 発展的な学習内容を提示している。(p.42等)</p>	<p>・東日本大震災の捜索活動等の災害派遣の写真が掲載されている。(p.75)</p>	<p>・すべての単元で, 歴史学習を想起させる記述から, 公民的分野の学習に入る工夫がされている。(p.38等)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

社会科 (公民的分野 No.4)

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)	
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫		6. その他
R	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や図表に対して, 記述の量が多くとられている。 ・本文は簡潔にまとめられており, 関連する内容の補充や発展的な内容を「理解を深めよう」として数多く掲載している。(p.43,59等) ・学習内容が精選され, 発展的学習等に充てる時間が十分取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民で学習する内容をタテ軸とヨコ軸というとらえ方で説明し, 生徒にとって学習する事柄が整理しやすくなるよう配慮されている。(p.5) ・歴史上の人物や著名人を写真入りで多く取り上げて, 学習内容と関連付けてその業績を紹介している。(p.95,120等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「理解を深めよう」を27か所にわたり設け, 興味を持ちながら学習を進めることができるよう工夫されている。(p.43,59等) ・働くことの意義を第一線で活躍する人の例から考えさせ, 生徒の関心を高める工夫がされている。(p.132,133) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家と国際社会の学習で, 「日本の領土問題」について記述し, 竹島問題については「外務省ウェブサイト」の引用を掲載している。巻頭見開きカラーページに写真を掲載し, 「理解を深めよう」でも記述している。(p.157, 172) ・原子力発電については省エネルギーの観点から紹介されている。(p178) 	<ul style="list-style-type: none"> ・終末に「社会科のまとめ」として, 内閣総理大臣になったと仮定して課題解決学習のレポートを作成する項目が掲載されている。(p.185～191) ・「やってみよう」を自学自習への手がかりとし, レポート作成につなげる構成になっている。(p.80,131等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・目次にあわせ, 「この教科書の構成」として学習内容を構造化した図が掲載してある。(p.6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分が内閣総理大臣になったら」などの学習で, 生徒が国家規模の視点をもって考えることを促す内容になっている。(p.185等)

選 定 に 必 要 な 資 料

地 図 No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
A	<p>・世界・日本の地域とも一般地図と基本的な資料図中心の1部と詳しい資料図中心の2部に分けられている。</p> <p>・公民的分野の学習でも活用できるように地球環境について写真や資料図がまとめて掲載されている。(p.7~10)</p> <p>・歴史的な観点の資料が豊富に掲載されている。(p.15~16,18,74~76)</p>	<p>・世界や日本の産業の様子の地図やグラフをまとめ, 地域の特色や産業の様子などを理解しやすいよう工夫されている。(p.105~108, p.125~128)</p> <p>・各地域の特色をとらえやすいように, 地域ごとにテーマを設定し, 関連した資料や地図が多く示されている。(p.89)</p>	<p>・「地図でスタート」と題して, 構成や活用例が示され, わかりやすく説明されている。(p.4~6)</p> <p>・資料を通して学習が深まるように, 「読図の一步」と題して資料の視点が示されている。</p> <p>・「チャレンジ」では, 同年代の男女のイラストを用いて, 学習課題に親しみやすくなるように工夫されている。</p>	<p>・中国地方の人口分布と変動, 高速道路の変遷が記載されている。(p.66)</p> <p>・日本の周辺(p.49)の地図などに加え, 島根県からの竹島の位置関係が捉えやすい地図が掲載されている。(p.67)</p> <p>・島根県については, 荒神谷遺跡や石見銀山遺跡, 宍道湖・中海のラムサール条約への登録がわかりやすく示されている。(p.67~68)</p>	<p>・1部の「基本の資料」では, ページ上部に「チャレンジ」と題して学習の視点・過程が示されている。</p> <p>・「基本の資料」の資料図には, 関連した図や詳しく見る図の, 掲載ページと図のタイトルが示されている。(p.20)</p> <p>・発展的学習が行えるように, より詳しい資料が2部にまとめて掲載されている。</p>	<p>・京都や奈良の拡大図とともに, 歴史的建築物などがイラストで紹介され, 修学旅行の学習で活用しやすい。(p.75~76)</p> <p>・歴史的な分野や公民的分野の授業でも活用しやすいように歴史的地名や遺跡, 東京の首都機能が記載されている。(p.91~93)</p>	<p>・一般地図や基本の資料を用いて, 基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらった1部と, さらに詳しい資料や補完資料を用いて, 習得した知識や技能, 思考力・判断力をさらに深める2部の構成となっている。</p> <p>・資料図やグラフ, 統計が豊富に掲載され, 資料の読み取りを通して, 論理的に考える力を育てる工夫がされている。</p>
K	<p>・横長のAB判のため, 資料図や写真が大きい。</p> <p>・世界の環境問題について, 実感を持って理解できるように大きめの写真や経年変化の分かる写真が掲載されている。(p.13~14)</p> <p>・世界の生活や文化について, 住居や衣服, 食事, 言語や宗教の資料図や写真が豊富に掲載されている。(p.15~18)</p>	<p>・北陸3県を事例に, 地域の特色をとらえる視点がわかりやすく説明されている。(p.7~8)</p> <p>・世界や日本の地形や様子をとらえやすいように鳥かん図が多く掲載されている。(p.60)</p> <p>・地域の移り変わりや地域間の結びつきをとらえやすいように年代別地図や周辺部とのつながりを表す地図が多く使われている。</p>	<p>・生徒が地図帳を利用しやすいように, 地図の使い方が具体的に示されている。(p.4~6)</p> <p>・地域の特産物や天然記念物などをイラストでも掲載し, 親しみがもてるように工夫されている。</p> <p>・イラストの鳥かん図を随所に用いて, その地域の様子が視覚的に興味をもって大観できるように配慮されている。</p>	<p>・日本列島(p.74~76)や日本の位置と周りの国々(p.163), 都道府県の地図(p.164)に竹島が記載されている。</p> <p>・島根県について, 「ながめてみよう」(p.87)で石見銀山や出雲大社などがイラストで, 中国地方の地図(p.83~84)で石見銀山や荒神谷遺跡, 松江城, 加茂岩倉遺跡などがわかりやすく示されている。</p>	<p>・地図中に「地図を見る目」と題した着眼点や「やってみよう」と題した学習課題が随所に示されている。</p> <p>・発展的学習が行えるように, 地域や地方ごとに豊富な資料がまとめられている。また, 「日本との結びつき」や「環境」の資料が豊富に掲載されている。(p.34)</p>	<p>・京都, 奈良, 大阪の拡大図とともに, 歴史的建築物などがイラストで紹介され, 修学旅行の学習で活用しやすい。(p.93~94)</p> <p>・歴史的な分野や公民的分野の授業でも活用しやすいように歴史的地名や遺跡, 東京の首都機能が記載されている。(p.109, 110)</p>	<p>・「ながめてみよう」の地図を中心に地域の特色をつかみ, 「地図を見る目」や「やってみよう」などのコーナーで地図の活用につなげる構成となっている。</p> <p>・写真やイラスト, 鳥かん図を豊富に掲載し, 資料の読み取りに加え, 地域やそこに住む人々の生活の様子が実感をもってとらえられる構成となっている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

数 学 科 No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
A	<p>・全般を通じて, 基礎的な事項には説明を十分にするなど, 基礎的な知識の習得を重視している。(2年 p.13)</p> <p>・節ごとに「基本の問題」が, また章ごとに難易度の異なる A, B 問題が設定してあるなど, 練習問題が豊富である。(3年 p.57~59)</p>	<p>・「三平方の定理」の後に「円周角の定理」を学習するように構成されている。</p> <p>・学習の流れが, 単元及び学年を通じて, 「例」「たしかめ」「問」という順で一貫した構成になっている。(1年 p.38, 3年 p.160)</p>	<p>・図形やグラフの変化の様子を見ることができ, パラパラ漫画で表現されている。(2年 p.91)</p> <p>・巻末の課題編には, 身近な事象に数学が関わっていることなどが記載されている。(1年 p.219)</p>	<p>・「まちがい例」から誤答の理由を考えることや表現されたことを読み取る活動を通して, 事柄の意味理解を図っている。(3年 p.100)</p> <p>・単元の導入で問題解決的な課題を設定し, 論理的な思考の育成を図っている。(3年 p.34)</p>	<p>・「数学マイノート」でノートづくりの方法が紹介されており, 生徒の学習を支援する工夫がなされている。(1年 p.49)</p> <p>・巻頭「数学の学習の手引き」により, 家庭学習の仕方などへの配慮がされている。(3年 p.4)</p>	<p>・「くにびきメッセ」「仁摩サンドミュージアム」が掲載されている。(1年 p.1, p.166)</p> <p>・キャラクターの問い掛けから多様な考えを引き出す工夫がなされている。(2年 p.71)</p>	<p>・身近な題材を多く扱い, 生徒の興味・関心を高めたり, 活用したりすることを重視している。</p> <p>・式を読むこと, 説明することなどの言語活動の充実を図り, 数学的な見方や考え方の育成を重視している。</p> <p>・見返しの読み物資料や図形のしきつめ等により, 数学の有用性や美しさを感じ取れるように工夫している。</p>
B	<p>・基礎・基本の問題から難易度の高い問題まで豊富な問題量である。(1年 p.50,54~56)</p> <p>・1つの学習内容が見開き 2 ページにわたっていいいに説明してあり, 生徒に理解しやすいように工夫されている。(2年 p.10)</p>	<p>・各章末に解答を設けたり, 巻末に「学習の準備」を設けたりして, 使いやすく構成している。(3年 p.45,277)</p> <p>・学習内容と関連のある既習事項やトピックスをページの右側にわかりやすく記載している。(1年 p.16)</p>	<p>・点の移動の問題では, 時間を小刻みに変化させた図を示し, 動きをイメージしやすいように工夫している。(1年 p.156, 2年 p.100)</p> <p>・巻末の「Mathful」には興味・関心を高めるような題材が多数ある。(3年 p.249)</p>	<p>・3年間を通して面積図を活用することなどにより事柄の意味理解を図っている。(3年 p.26)</p> <p>・一つの課題を基に新たな問題を作ったり, 式を読み説明したりする課題により論理的な思考の育成を図っている。(3年 p.98)</p>	<p>・「プラス・ワン」や類題を設定し, 生徒の習熟度に対応できるよう工夫されている。(1年 p.185)</p> <p>・章末の「もっと数学」では, その単元の発展的な題材がいいいに扱われている。(2年 p.65)</p>	<p>・本文の文字が大きく読みやすい。また例題と問題の字体を変えて区別しやすくしている。</p> <p>・直接書き込める問題が多く, 問題集の感覚で使用できる内容になっている。(3年 p.111, 151)</p>	<p>・全体的に問題量が豊富である。</p> <p>・余白を多めにとり文字を大きくするなど読みやすさを重視している。</p> <p>・レポートの書き方を 5 ページにわたり紹介するなど, 言語活動を重視している。(1年 p.290)</p> <p>・数学の歴史, 和算, 関連図書の紹介などにより, 数学の広がりを感じ取れるように工夫している。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

数 学 科 No.2

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
E	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の導入, 例題, 問, 問題等が精選されており, 分量が適切である。 計算の単元では, 節末に「計算の復習」のページが設けられ, 計算問題の分量が多めに用意されている。(1年 p.49) 	<ul style="list-style-type: none"> 節末の「確かめよう」には, 学習したページが示されており, 振り返り学習を行えるよう工夫されている。(2年 p.18) 前学年の復習問題が巻末にあり, 必要なときに参照できるような構成になっている。(3年 p.244) 	<ul style="list-style-type: none"> 図形が動く様子を見ることができるように, パラパラ漫画で表現されている。(2年 p.103) 資料の活用の単元では, 資料集めに利用しやすいウェブサイトアドレスが記載されている。(1年 p.233) 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的活動を扱う「活動」と記述された内容では, 段階的に考えられるような配慮により, 事柄の意味理解や論理的な思考の育成を図っている。(3年 p.28) 巻末の「課題学習・自由研究」では, 福祉など身近な生活と関連付けた題材が設定されている。(1年 p.254) 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の章末に「活用しよう」「深めよう」などの発展的な内容が設定されており, 自学に活用できるように工夫されている。(2年 p.122,123) 巻末には総合問題が置かれ, 複数の単元の内容を活用する問題が充実している。(3年 p.258) 	<ul style="list-style-type: none"> 1年「空間図形」の導入ページに仁摩サンドミュージアムが載っている。(1年 p.180) 座標平面の1目盛りを大きくとっており, 見やすく, 書き込みやすくなっている。(2年 p.68) 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的活動を重視し, それを積極的に取り入れた授業が展開できるように工夫している。 易しい課題から難しい課題へと段階的にじっくりと取り組むことができるような内容となっている。 「用語の由来」や「クイズアップ」等により数学の不思議さを感じ取れるように工夫している。(1年 p.89,136)
G	<ul style="list-style-type: none"> 「基本のたしかめ」のページを節末に設け, 基礎・基本の定着を図るための問題を用意している。(2年 p.30) 問題の文章を図式化して, 生徒の思考を助ける工夫がされている。(1年 p.107) 	<ul style="list-style-type: none"> 章のはじめに, 小学校や前学年の復習ができるように構成されている。(2年 p.8) 章末に, 学習した内容がコンパクトにまとめられた「学習のまとめ」が掲載されている。(1年 p.51) 	<ul style="list-style-type: none"> きれいな色づかいによりわかりやすく表現され, カットが豊富に盛り込まれている。(3年 p.102) 数学への幅広い見方ができるように, 記号や式の英語の読み方が紹介されている。(3年 p.90, 259) 	<ul style="list-style-type: none"> 誤答例から誤答の理由等を考えさせることにより, 事柄の意味理解を図っている。(3年 p.12) 各章の始めで問題解決的な課題を扱うことにより, 論理的な思考の育成を図っている。(2年 p.139,141) 	<ul style="list-style-type: none"> 章末問題では, 各問題に評価の観点が明記され, 生徒の自己評価に役立つよう工夫されている。(1年 p.86) 「たしかめの補充問題」のページが示されている。(3年 p.14) 	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化炭素濃度の増加に関する問題など, 環境問題が取り扱われている。(3年 p.222) 「数学ミニ辞典」で, 数学に関する話題を簡潔に紹介している。(1年 p.17) 	<ul style="list-style-type: none"> 1つの単元の中で, 何度も基本のたしかめをしながら学んでいくことができるなど, 構成がていねいである。 本として読み進めやすく, 自学用として用いることを想定したつくりになっている。 錯視や様々な図形のしきつめなどにより, 数学の不思議さや美しさを感じ取れるように工夫している。(1年 p.195)

選 定 に 必 要 な 資 料

数 学 科 No.3

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
M	<p>・基礎・基本の定着をねらいとした問題と, 難易度の高い問題とが, ともに豊富に用意されている。</p> <p>・各単元の導入, 例題, 問題が精選されており, 内容, 分量ともに適切である。</p>	<p>・「ふりかえり」「算数から数学へ」で既習事項の復習をしながら, 学習を進められる構成になっている。</p> <p>(1年 p.82, p.85)</p> <p>・発展的な学習の内容・問題が巻末に配置されている。</p> <p>(2年 p.160,190)</p>	<p>・「学習のとびら」を節ごとに設け, 興味・関心を高める工夫がされている。</p> <p>(3年 p.165)</p> <p>・「数学展望台」「ひろがる数学」を設け, 身の回りの問題に数学を利用している。</p> <p>(1年 p.105)</p>	<p>・「話し合う」「伝える」「まとめる」という課題を多く設定し, 事柄の意味理解や論理的な思考の育成を図っている。</p> <p>(1年 p.70,81,114)</p> <p>・巻末の「読み取る数学」では, 資料などを読み取る力を付ける工夫がされている。</p> <p>(2年 p.173)</p>	<p>・巻頭でノートのみまとめ方が紹介されており, 学習を支援するよう工夫されている。</p> <p>(3年 p.9)</p> <p>・「広がる数学」「発展! 広がる数学」は難易度が高く, 習熟度に応じて選択し学習できるよう工夫されている。</p> <p>(2年 p.162,163)</p>	<p>・適度な行間で, 余白との全体的なバランスが良く読みやすい。</p> <p>・ページ右側の随所に「見方・考え方」の項目があり, 観点が意識されるように工夫されている。</p> <p>(3年 p.97)</p>	<p>・話し合うことや伝え合うことを重視した内容になっている。また, レポートの書き方が3ページにわたって紹介してあるなど, 全体を通して言語活動を重視したつくりになっている。</p> <p>・「ひろがる数学」「数学を通して見てみよう」を巻末に設け, 数学の奥深さや有用性をわかりやすく感じ取れるように構成を工夫している。</p>
N	<p>・例題を学習した後に, 基本的な問題から難易度の高い問題までがスモールステップで豊富に用意されている。</p> <p>(1年 p.63)</p> <p>・良くない例も示すことで, より深い理解を図れるような工夫が見られる。(1年 p.123)</p>	<p>・巻頭で前学年の既習内容がまとめてあり, 単元のはじめや途中で確認するのに適した構成になっている。(2年 p.2)</p> <p>・座標と地図を関連付けるなど, 他の教科との関連を考慮して教材を選択している。</p> <p>(1年 p.110)</p>	<p>・各単元の導入で, 興味が高まるような事柄や日常生活に関わる内容から問題場面を設定している。(1年 p.162)</p> <p>・1年では, 巻頭でアルファベットの表記や筆記体のことが説明されている。</p> <p>(1年巻頭3ページ目)</p>	<p>・3年間を通して面積図を活用することなどにより事柄の意味理解を図っている。</p> <p>(3年 p.16)</p> <p>・学習内容を活用する場面で, 論理的な思考の育成を図るために段階を追って思考できるように記述している。</p> <p>(2年 p.77~79)</p>	<p>・巻末「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」では, どこで学習した内容なのかを確認できるようになっている。</p> <p>(巻末チャレンジ編)</p> <p>・「発展」では, 数学史との関連からさらに発展的に学習できるようになっている。</p> <p>(2年 p.52)</p>	<p>・重要な用語は太字にするだけでなく赤字で書かれている。(3年 p.32)</p> <p>・ページの使い方に無駄がなく文字量も適量で, 全体的に厚さが抑えられている。</p>	<p>・柔らかい色使いを採用し, すっきりとしたレイアウトになっているため読みやすいつくりになっている。</p> <p>・基礎・基本の定着を目指す問題から思考力を問う難易度の高い問題まで, 幅広く問題が用意されている。</p> <p>・「試してみよう」等のページを設け, 数学のよさや奥深さを感じ取れるように工夫している。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

数 学 科 No.4

記 号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
○	<p>・各章で「基本の問題」から「とりくんでみよう」まで 4 段階の多様な問題を豊富に用意している。 (1年 p.42,46~50)</p> <p>・基本の問題などでは, どこで学習した内容かを確認できるよう工夫されている。 (2年 p.28)</p>	<p>・「三平方の定理」の後に「円周角の定理」を学習するように構成されている。</p> <p>・学習の理解が着実に図れるように, 全学年を通して, 内容を「トライ1」「トライ2」「トライ3」の3段階で構成している。 (2年 p.93~95)</p>	<p>・同じ題材を複数の学年で扱うことで, 学習内容によって見方を変え, 興味を喚起する構成になっている。 (2年 p.21, 3年 p.31)</p> <p>・「数学研究室」のページで数学史などを扱い, 興味を喚起するよう工夫されている。 (3年 p.199)</p>	<p>・式の読み取りなどにより事柄の意味理解を図っている。(1年 p.64, 3年 p.35,69)</p> <p>・「Math マス活動!」で数学を活用したり説明したりする活動を設け, 論理的な思考の育成を図っている。 (3年 p.104,105)</p>	<p>・裏表紙の見返しに図形内容の要点や条件がまとめられており, 復習に使えるように工夫されている。</p> <p>・巻末の解答がていねいに書かれており, 自学でも使えるよう工夫されている。 (1年 p.249)</p>	<p>・章末問題では, 各問題に評価の観点が見記されている。 (2年 p.30)</p> <p>・小口にインデックスがついており, 目的のページが開きやすいように工夫されている。</p>	<p>・色の豊かさや余白の多さ, キャラクターの親しみやすさ等により, 読みやすくなっている。</p> <p>・説明の量が適切で, 予習・復習, 自学自習, 発展学習のどの場面でも使えるように工夫されている。</p> <p>・巻頭に「数学を勉強するみなさんへ」を設け, 数学と生き方との関連を感じ取れるように工夫している。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

理 科 No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫	6. その他	
A	<p>・単元のはじめのカラー写真や図により学習内容を具体的にイメージしやすい構成となっている。また、必要以上の色を廃して、見やすく、生徒の理解を深める工夫がされている。 (1年 p. 73, 121)</p> <p>・実験の方法や手順が具体的に示されており、器具の基礎操作や注意点も目立つように示されている。</p>	<p>・「やってみよう」→「考えよう」の構成で課題解決学習の流れが明確にしてあり、目的意識をもつて、観察・実験ができるように工夫されている。 (2年 p. 143, 144)</p> <p>・単元のはじめに、学習内容や既習内容が図や写真を用いて提示されており、小学校の学習との系統性に配慮されている。</p>	<p>・「科学のとびら」では身のまわりの事物・現象や日常生活に関連する内容を、「トライ」では身近な材料でできる実験例を紹介している。また、生活や職業、歴史との関連も図られているため、理科の有用性を理解するのに役立つ。 ・最新の地震データは、具体的な資料として、学習内容の理解を深めている。 (1年 p. 205)</p>	<p>・「たたら製鉄」(雲南市)を取り上げ紹介している。 (2年 p. 44)</p> <p>・グラフ作成において、失敗例を示して提示する等、技能習得への配慮がされている。 (1年 p. 118, 164)</p> <p>・「わたしのレポート」は実験結果から論理的に考え表現する例が示されており、言語活動の充実性に配慮されている。 (3年 p. 132)</p>	<p>・単元末等に「学習内容の整理」、「チェック」等、学習内容の振り返りや基礎的な内容の定着が図られるような問題が設けられており、自学自習に対応している。 ・「やってみよう」、「科学のとびら」等、自己の興味・関心に応じて学習内容を深化させるように配慮されている。 (3年 p. 136)</p>	<p>・巻末に校外の施設活用についての記載があり、博物館等に興味をもたせ、利用しやすくする工夫がされている。 ・ジオパークについて触れたり、地球と人間に関わる内容を充実させたりすることで、地球と人間の関係について考察させようとしている。</p>	<p>・「この単元で学ぶこと」、「チェック」、「学習内容の整理」等で目的意識をもって学習に取り組めるように工夫されている。 (1年 p. 17)</p> <p>・日常生活の疑問からスタートし、課題設定、観察・実験、考察という学習の流れが、自然につながる構成となっており、課題解決能力が身につくように配慮されている。 (2年 p. 225)</p>
B	<p>・単元末に終章を設け、学習した内容を活かし発展的な内容を考察するような課題が設定されている。 (1年 p. 58)</p> <p>・図表や写真、トピック等の関連資料が適切に配置されている。 ・葉の裏表の気孔の違いが、実験データだけでなく写真データでも示されている等、理解を深めるための資料が豊富である。 (1年 p. 39)</p>	<p>・単元のはじめに、既習内容と単元で学習する内容が写真で示されており、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。 (1年 p. 20)</p> <p>・導入に、身近な自然や生徒にとって印象的な内容が取り上げられており、学習意欲を喚起する工夫がされている。 (1年 p. 134, 135)</p>	<p>・クイズ形式を採用し、学んだことを楽しく復習できる工夫がある。 (2年 p. 156)</p> <p>・「くらしの中の理科」で、日常生活の中にとどのよう科学が活かされているかが示されている。 (2年 p. 45)</p> <p>・「トピック」で、科学に関する高度な話題を取り上げ、学習内容の理解を深める工夫がされている。 (3年 p. 120)</p>	<p>・観察・実験の手順や基本操作が大きな区切りと見出しで書かれ、ていねいに説明されている。 ・「分析しよう・きまりを見つけよう」では、分析や解釈の仕方を身につけられるよう工夫している。 (3年 p. 28)</p> <p>・「還元」では、「たたら」について紹介されており好奇心を喚起するのに有効である。 (2年 p. 49)</p>	<p>・「単元末問題」が復習に適した出題となっており、解答にも解説が加えられている ・「やってみよう」では、理解を深めるのに効果的な実験・実習や課題が設定されている。 ・「つくってみよう」「つづけてみよう」は、既習内容を基に自分で行うことができる実験が紹介されている。 (2年 p. 214)</p>	<p>・科学にかかわる職業や環境を守る話題を多く取り上げる等、様々な視点から科学を考えさせている。 (3年 p. 37)</p> <p>・巻末の「科学のとびらを開こう」は、課題研究・自由研究にチャレンジするものであり、自主的に取り組めるよう工夫されている。</p>	<p>・「トピック」、「やってみよう」等の資料が豊富であり、生徒が主体的に学習を進めていくのに適した構成になっている。 (1年 p. 88)</p> <p>・終章「学んだことを活かそう」等で、科学に対して意欲的に探究していこうとする態度を育てるとともに、学んだことを活用する力が高まるよう工夫されている。 (3年 p. 236)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

理 科 No.2

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫	6. その他	
E	<p>・写真や図表が大きく配置され、生徒の理解が深まるよう工夫されている。(1年 p. 24)</p> <p>・巻頭に観察・実験の進め方を掲載し、基本技能の習得や、結果から考察し規則性を導き出す科学的な考え方の流れを示している。</p> <p>・「基本的操作」は、写真等で手順が細かく示され、取り組みやすくなるよう工夫されている。</p>	<p>・単元のはじめに、既習事項と単元で学習する内容が示されており、見直しをもって学習に取り組めるよう配慮されている。</p> <p>・観察・実験では、結果と考察の欄が分かれています。観察がしやすくなるよう工夫されている。(1年 p. 25, 26)</p> <p>・観察・実験を深めるための課題「Let's try」が準備されている。</p>	<p>・「科学の窓」で、学習内容に関連する日常生活や先端技術、科学史などの話題を提示したり、章末の「どんな仕事？」で、学習内容に関係する職業を紹介したりして、学ぶ意義が感じられるよう配慮されている。</p> <p>・「チャレンジ」では、身近な素材を用いたものづくりや観察・実験を紹介している。(2年 p. 205)</p>	<p>・ボタン(県花)(1年 p. 231)や大根島の溶岩ずい道(3年 p. 272)、たたら製鉄(2年 p. 41)等の地域素材が紹介されている。</p> <p>・横断的な学習ができるよう「他教科との関連」を提示している。(1年 p. 99)</p> <p>・「説明してみよう」を多く設け、言語活動の充実が図れるよう工夫されている。</p>	<p>・巻末の「自由研究」「資料」が充実しており、発展的・自主的な学習の補助となるよう、研究例や既習の基本操作等を詳しく紹介している。</p> <p>・単元内の「問い」や章末の「学習のまとめ」「単元末問題」で学習内容を振り返り、基礎・基本が定着するよう工夫されている。</p>	<p>・インターネットデジタル教材や調べ学習に対応したHPアドレスを紹介し、生徒が自主的に学習を進められるよう配慮している。(3年 p. 230)</p> <p>・2年巻末に原子カードがついており、興味をもって化学変化が学習できるよう工夫されている。</p>	<p>・既習事項との系統性が効果的に示され、学習内容の理解が深まるよう紙面構成が工夫されている。(3年 p. 8)</p> <p>・「チャレンジ」では生徒が取り組みやすいよう身近な素材を用いた観察・実験等が紹介され、興味・関心が高まるよう工夫されている。(3年 p. 52)</p>
G	<p>・単元のはじめに、単元での学習内容の流れや他学年(小学校も)との関連も示されており、学習の系統性や見通しがもちやすい。</p> <p>・写真・図表等は、ほぼ同じ大きさに配置され、簡潔な文章でまとめられており、内容がとらえられやすいよう紙面が工夫されている。(2年 p. 30)</p>	<p>・「実験から分かること」や「わたしのレポート」は、具体的な例を挙げて説明されており、観察・実験のまとめや復習するのに役立つことができます。(2年 p. 48)</p> <p>・各単元の学習課題が明確に示され、それを解決するための実験や考察がすぐ後に配されており、目的をもち学習に取り組むことができる(3年 p. 4)</p>	<p>・「家族や友だちとチャレンジ」は、身近な素材による科学実験等を取り上げており、図も簡潔に示されているので自主的に取り組むことができます。(3年 p. 78)</p> <p>・巻末の「自由研究」は、観察・実験の例が多く掲載されている。また、課題を見つけてから探究するまでの過程が示されており、自由研究を行う際の参考になる。</p>	<p>・「ハローサイエンス」で日常の科学、環境とのかかわり、科学史、コンピュータの利用等を取り上げ、日常生活と関連付けながら学習を進められるように工夫されている。(2年 p. 86)</p> <p>・「実験・観察からわかること」は、結果の分析・解釈が整理され、まとめる際の表現の仕方の参考になり、言語活動の充実にもつながる。</p>	<p>・「学習したことを活用しよう」で、学習内容にかかわる現象を説明させたり、発展的な実験が設定されたり、理解を深める工夫がされている。(2年 p. 211)</p> <p>・章末に「重要用語の整理」があり、また章末問題も「基礎・基本」「応用・活用」の二段階に分かれており、学習内容の定着に役立つよう配慮されている。</p>	<p>・2, 3年生の巻末に、原子モデルカード、星座早見盤がついており、化学変化や、星座の動きを学習するのに効果的である。</p> <p>・ポイントとなる知識や公式等が本文中に赤色で強調して示され、基礎・基本の定着を図るための工夫がされている。</p>	<p>・全体がコンパクトにまとめられており、学習内容を把握しやすい。要点を示した紙面構成をし、生徒が主体的に学習をしていくのに適した構成になっている。(1年 p. 42~49)</p> <p>・イラストや図で、段階を追って説明することにより、理解が深められるよう工夫されている。(1年 p. 67)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

理 科 No.3

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫	6. その他	
M	<p>・写真や図表が大きく、効果的に扱われており、学習内容がとらえやすいよう紙面構成が工夫されている。 (1年 p. 18, 19, 72)</p> <p>・本文中に確認させたい図表番号が示され、探しやすくなるよう配慮されている。</p> <p>・各単元のはじめに、「ふりかえり」「単元のねらい」が端的かつ、系統的にまとめられている。</p>	<p>・巻末においてその学年で学習した内容の確認や次学年で学習する内容の一覧がまとめられ、見通しがもてるようになっている。</p> <p>・「つながるページ」では、学習している内容と関連しているところのページが示されており、各分野の横断的なつながりが理解しやすくまとめられている。 (1年 p. 33, 2年 p. 14)</p>	<p>・「科学の広場」では理解・生活・安全・語源等の項目が示され、学習に関連する内容がタブ表記で区別して示されている。 (1年 p. 181)</p> <p>・単元末の「ひろがる世界」「未来へひろがる世界」では、学習内容に関わる身近な話題から最先端の出来事まで幅広く取り上げ、具体的な例を挙げて説明がされている。</p>	<p>・「サイエンス資料」では実験上の注意点、器具や薬品の使い方等、図や写真を使っていねいに説明されている。 (1年 p. 12, 13, 100～105)</p> <p>・「地域資料集」として、各地域の特徴的な自然が紹介されており、島根県の三瓶山や石見畳ヶ浦(1年 p. 232)、中国山地にくらす動物(2年 p. 238)等が挙げられている。</p>	<p>・発展的学習では前葉体(1年 p. 44)やフレミングの左手の法則(2年 p. 210)等、科学的用語が扱われ、生徒の探究心が高められる内容となっている。</p> <p>・別冊「マイノート」に学習内容の確認問題や基本・応用問題が掲載され、自学自習に役立つよう工夫されている。</p>	<p>・実験結果のまとめが「わたしのレポート」として具体的に示され、まとめや考察の補助資料となっている。 (2年 p. 158)</p> <p>・「はたらく人に聞いてみよう」では、働く人々のコメントをまじえ、キャリア教育との関連を図っている。 (3年 p. 113)</p>	<p>・「先人の知恵袋」では、科学と生活の関係について、人を通して紹介されている。 (3年 p. 203)</p> <p>・巻末に自由研究のテーマやまとめるための方法が具体的に示されている。</p> <p>・コンピュータの利用方法等が紹介され、現代の実情にそった情報収集の手段について触れられている。 (3年 p. 53)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

音 楽 科 (一般 No. 1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
G	<p>・目次に示されているように, すべての学年において「さまざまな音楽文化」としたくりで題材が構成されており, 表現と鑑賞が関連するように配慮されている。</p> <p>・我が国の伝統音楽に関する鑑賞教材において, 関連する楽曲が充実しているとともに, 視覚的に内容が捉えられるよう資料が見開き3ページ扱いになっている。(1年p. 40, 41)</p>	<p>・創作の学習は, 各学年共通して「音のスケッチ」という題材が設定され, 段階的に系統性のある学習が進められるように配慮されている。(2・3年上p. 42等)</p> <p>・1年p. 22のように, 比較鑑賞することで効果的な学習が展開できるように工夫されている。</p>	<p>・1年p. 20や2・3年上p. 17のように, 作詞者や作曲者の楽曲に対する思いが掲載されており, 生徒の関心を高める一助となっている。</p> <p>・「Let's Try!」では, 民謡, 歌舞伎, 能の一部を実際に体験できるように工夫されるなど, 生徒の学習意欲を喚起することができるように配慮されている。(1年p. 51, 52)</p>	<p>・1年p. 19のように, 音楽記号等が知識のみの習得にならないように, 音楽活動と関連付けながら学ぶことができるように工夫されている。</p> <p>・1年p. 40では全国の民謡と芸能が6つの特徴でまとめられており, 安来節もその一つとして紹介されている。</p>	<p>・「どんな特徴があるかな?」(全学年共通)では, 音楽を形づくっている要素について分かりやすく示されており, 教材と関連付けながら学習を進めることができるよう配慮されている。</p> <p>・全学年を通して, 音楽の素材となる「音そのもの」に関する解説が位置付けられており, 系統的に学習できるように配慮されている。</p>	<p>・2・3年下p. 46～49では, 生活と音楽とのかかわりについて, 具体的な例を挙げ, 分かりやすく示されている。</p>	<p>・各教材の冒頭部分には, 学習の視点が明記されており, 生徒が見通しができるように配慮されている。</p> <p>・「歌のアルバム」では, ポピュラー曲など親しみやすい楽曲が取り上げられている。</p>
H	<p>・一題材に対する教材が精選されており, 適切な分量になっている。</p> <p>・1年p. 13のように, 歌唱や器楽の活動と関連させながら創作活動を位置付けるなど, 系統的内容となっているとともに, 限られた時数の中で効果的な学習展開ができるように配慮されている。</p>	<p>・目次では, 題材を構成する上でポイントとなる「共通事項」が「学習の窓口」としてイラストで分かりやすく示されているとともに, 学習の目標とも関連をもたせるように工夫されている。</p> <p>・歌唱教材では, 歌い継がれている合唱曲や, 友達を思う心情を大切にされた教材が豊富に取り入れられている。</p>	<p>・口絵2には「発展的学習」として, 一流音楽家による音楽観が印象的な写真とともに示されており, 生徒の学習意欲を高める一助となっている。</p> <p>・「My Voice」では, 姿勢や声そのものに視点をあてた分かりやすい解説がイラスト入りで示されており, 生徒の興味・関心を高める上で有効なものとなっている。</p>	<p>・2・3年下p. 15のように, 創作活動の手順が具体的に示されており, 生徒が主体的に取り組めるように構成されている。</p> <p>・旋律創作(1年p. 13)や編曲(2・3年上p. 10)など, 創作の学習が系統的に進められるように配慮されている。</p>	<p>・巻末部分には「音楽の約束」として, 基礎的な知識となる記号等が示されており, 楽曲を創意工夫していく際のものよりどころとなるように配慮されている。</p> <p>・1年p. 28のように, 活動の手順が示されているとともに, ワークシート形式の書き込みスペースがあるなど, 思考力を高めるよう工夫されている。</p>	<p>・各学年ともに, 後半部分では, 我が国や諸外国の音楽について, 様々な時代や曲種のものを取り上げられており, 音楽のもつ多様なよさや面白さを感じ取るように配慮されている。</p>	<p>・「共通事項」を通してどのようなことを学習するのかがよく分かるように配慮されている。</p> <p>・歌唱共通教材のページは(各学年共通), 「心の歌」として生徒の感性に訴えるような写真が取り入れられており, 思いを膨らませながら活動できるように配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

音 楽 科 (器 楽 No. 1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
G	<p>・前半部分に「各楽器の基礎」として基礎的な知識や技能を習得する部分が位置付けられており, 後半部分の教材編との系統的な学習が実施されやすいように配慮されている。</p> <p>・p. 62~73 のように, リコーダーアンサンブルの楽曲が数多く取り上げられ, 学校や生徒の実態に応じて選曲できるよう配慮されている。</p>	<p>・p. 50~55 のようにラテンパーカッションやオーケストラで使用する楽器など, さまざまな打楽器についての基本的な事項がコンパクトにまとめられている。</p> <p>・p. 82, 83 のように, 曲調の異なる教材としてボディパーカッションによる教材が扱われている。</p>	<p>・表紙裏にある「With My Heart」では, 日本を代表する和楽器奏者によるメッセージが示されており, 我が国の音楽への関心を高める一助となっている。</p> <p>・p. 26 やp. 31 のように, 息の使い方や息の流れなどについて, 写真やイラストによって視覚的に捉えることで興味・関心を高めるよう配慮されている。</p>	<p>・p. 31 のように, 音楽の基礎的な知識となる事項が随所に示されている。</p> <p>・p. 56~83 のように, 各楽器の特性を生かした合奏教材では, クラシックからポピュラーまでの幅広いジャンルから選曲されており, 少人数でのアンサンブルなど, 生徒の実態に応じて学習が進められるよう工夫されている。</p>	<p>・p. 15 のように, 「演奏のポイント」として, 楽曲を創意工夫する過程において役立つ視点が分かりやすく示されている。</p> <p>・p. 91, 92 のように, 各種リコーダーの運指とギターのコードネームとダイアグラムが見開きページとして扱われており, 基礎的な技能を習得する場面において有効活用されるように配慮されている。</p>	<p>・目次には★印で楽曲の難易度が示されており, 生徒の実態に応じて取り組めるように配慮されている。</p> <p>・アルトリコーダーの基礎練習曲にコードネームが示され, 他の楽器とのアンサンブルができるように配慮されている。</p>	<p>・前半部分の「各楽器の基礎」では, 生徒の感性に訴えるような写真や挿絵, イラストが数多く取り入れられている。</p> <p>・全般を通して多様な楽曲が掲載されており, 実態に応じて選曲できるように配慮されている。</p>
H	<p>・全体的に各楽器の基礎・基本が大切にされているとともに, 比較的平易な楽曲を用いることで, 系統的かつ発展的な展開ができるように配慮されている。</p> <p>・器楽分野の学習だけでなく, 創作分野と関連させることで, 生徒自らが価値ある音楽をつくり出せるように構成されている。</p>	<p>・p. 7 のようにアルトリコーダーのページは, 段階的に基礎・基本が習得できるように構成されており, 楽曲も親しみやすいものが使用されている。</p> <p>・各楽器の構造や基本奏法に関する解説が充実しているとともに, 基礎的な知識と基本的な奏法を生かしながら創意工夫できるように構成されている。</p>	<p>・p. 27 のように, 演奏者の立場から見た写真が多く用いられており, 生徒の興味・関心を高めるうえで効果的である。</p> <p>・p. 40 のように各楽器の導入ページには共通して, 一流演奏家による印象的な写真が使用されており, 演奏場面をイメージする一助となっている。</p>	<p>・p. 29 のように, 既存の楽曲を演奏することに留まらず, イメージをよりどころにしながら和楽器による創作活動に取り組めるように配慮されている。</p> <p>・p. 56~85 のアンサンブル教材においては, 「共通事項」を視点にした演奏ポイントが分かりやすく示されている。</p>	<p>・p. 28 やp. 30~31 のように, 五線譜と縦譜の両方が並べて示されており, 自学自習の際の一助となるように工夫されている。</p> <p>・p. 50~55 の「アンサンブルセミナー」では, 音の重なり方や楽曲の構成などの視点が明確に示されており, グループ学習などにおいて創意工夫しながら活動できるように配慮されている。</p>	<p>・p. 74 のように多様な編成に対応するために, アンサンブル教材が充実しており, 各学校の実態に即して選択できるように配慮されている。</p> <p>・p. 86 の「名曲スケッチ」では, 従前同様にクラシック音楽の名曲が時代を追って解説付きで配列されている。</p>	<p>・p. 7 のように, 音に対する意識をもたせるためのイラストやp. 30 のように動作を分割して示された写真などが, 音そのものや音色に対するイメージを膨らませる一助となっている。</p> <p>・教材数が精選されており, 3年間を通して系統的に学習できるように工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

美術科 No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
D	<p>・1年では「自分・感性」「友達・交流」「学校・生活」「自然・社会」といった4つの関わりを挙げ, 各単元の取組に見通しがもてるように工夫されている。</p> <p>・1年から2・3年へと, 生徒の発達に応じて題材を系列的に配置している。また, 題材ごとに学習のねらいを観点別に揚げ, 目標を明確にもち学習できるように配慮されている。</p>	<p>・1年 p.18 のように, テーマに沿って様々な材料や技法を使った作品が載せられ, 学習を効果的に進められるよう配慮されている。2・3年 p.10 のように作家の作品を関連付けて鑑賞できるように構成され, 一連の流れを通して学習を深めることができる。また, 鑑賞作品に作者の言葉が書かれており, 鑑賞の手がかりになるよう配慮されている。</p>	<p>・2・3年 p.13, p.41 のように, 参考作品にはそれぞれの特徴や作者の言葉が記載されており, 生徒が興味・関心をもって学習できるように工夫されている。</p> <p>・鑑賞作品には, 見る視点, 話し合いの視点を載せ, 作品を味わうポイントとなっている。また, そこから制作意図につながる工夫もなされている。(1年 p.32, 33)</p>	<p>・1年 p.8 のように何気ない風景のとらえ方を知り, そのものの持つ良さを発見できるように工夫されている。</p> <p>・2・3年 p.58 のように地域の素材や技法を多く取り上げ, 県の伝統工芸に関連づけることができる。</p> <p>・2・3年 p.86 で, 古代から現代までの多様な作品を取り上げ, 美術文化への関心が高まるような工夫がしてある。</p>	<p>・2・3年 p.53 のように, ユニバーサルデザインをポスターで提案することを通して, 福祉・環境について考えることができる。</p> <p>・2・3年巻末には, 社会で働く先輩の言葉を載せ, 美術が普段の生活や将来に生かせるよう紹介されている。</p> <p>・2・3年 p.12 のように, 技法等が分かりやすく紹介され, 自学自習に生かすことができる。</p>	<p>・見開きページを用い, ゲルニカや絵巻物など効果的に鑑賞できるように工夫されている。(2・3年 p.65, 66)</p> <p>・「色彩ホームページ」「道具箱」として, 色に関するページや安全面や用具の扱い方を取り上げている。</p>	<p>・一つの題材を違う視点で捉えることによって多様な表現ができることを, 多くの参考作品を載せることで提示している。また, その作品に対する作者の思いも載せることで, 自分の制作のヒントにもつながっている。また, そのことで, 制作の順序も総合的に考え, 作品に生かせるような工夫がなされている。</p>
J	<p>・もくじにあるように, 表現の分野(絵画・彫刻・デザイン・工芸)や鑑賞が明確に分かれており, 1年で学習した内容を2・3年で深められるような構成になっている。</p> <p>・題材ごとに学習の目標が明記され, 生徒自身で確認できるようになっている。</p>	<p>・巻末に「学習を支える資料」を入れ, 各ページから必要な部分が検索できる。</p> <p>・1年 p.30 のように発想・構想を広げるためのヒントを記載し, 生徒が発想や構想する参考になるよう配慮している。</p> <p>・1年 p.20～25 など鑑賞教材を見開きで扱い, 同時に詩を掲載することで, 作品に感情移入しやすい構成である。</p>	<p>・2・3年上 p.28 や下 p.29 のように, 子どもたちが身近に感じ, 興味・関心をもてる題材が多い。</p> <p>・図版や写真が大きくて見やすく, 2・3年下 p.8 のように, 参考作品や生徒作品に作者の言葉を載せており, 主題を感じて表現や鑑賞に生かすことができる。</p>	<p>・1年 p.20～25 や2・3年上 p.18～23 のように, 見開きの大きな図版を載せ, インパクトが強く, 美術への興味・関心をもてるように工夫している。</p> <p>・文様や四季を取り入れた色彩など, 日本の伝統文化に触れ, 地域の伝統文化に目を向けるような題材が取り上げられている。(1年 p.32, 33)</p>	<p>・巻末に「学習を支えるページ」として表現方法や用具の使用方法が写真で紹介され, 自学自習に生かすことができる。</p> <p>・1年 p.31, 2・3年下 p.24 のように, 環境や日常生活に関係した題材を多く取り入れ, 生活の中の美術を意識することができる。</p> <p>・道徳と関連する内容をページ下に明記してある。(2・3年上 p.28 等)</p>	<p>・もくじが裏表紙にも記載され, 目的のページが見つけやすくなっている。</p> <p>・裏表紙にはバーコードがデザイン化され, 内容とリンクしているなど, 発見の楽しさが味わえる工夫が見られる。(例 1年→p.27 尾形光琳「燕子花図屏風」)</p>	<p>・ページを開くと作品が現れるような見せ方の工夫がされ, 生徒の関心が高まるような工夫がなされている。</p> <p>・作品解説は, 作者の気持ちを記載し, 他者の考え方もわかり, 自己の考えを深め, 話し合えるような内容になっている。</p> <p>・作品を通して, 生活の中に美術が密着していることを深く考えられるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

美術科 No.2

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
O	<p>・学年ごとに設定されたテーマで学年のねらいがわかりやすく, 参考作品・生徒作品が多く載せられ, 生徒が多様な表現を学ぶことができるように構成されている。</p> <p>・社会における美術の役割を取り上げた内容が多くみられる。</p>	<p>・アイデアスケッチを多く掲載し, 感じたことをイメージしながら, 発想や構想を深め, 自分なりの表現を追究できるような構成になっている。</p> <p>・1年 p.12 下部や2・3年上 p.15 右のように生徒作品に「作者の言葉」をのせ, 作品の主題を理解し, 自分の制作に生かせるようになっている。</p>	<p>・2・3年上 p.21 のように完成作品だけでなく, アイデアスケッチや制作過程を載せるなど, 生徒が興味・関心をもって制作できる。</p> <p>・2・3年上 p.42 では「映像メディアの積極的な活用」との関連で, カメラの取り扱いが細かく説明されている。自己表現しやすく, 生徒の興味・関心度も高い題材である。</p>	<p>・1年 p.36, 2・3年上 p.46, 47, 下 p.31 では, 日本の伝統工芸や風土を多く取り上げ, 地域の文化や工芸にも目を向けるよう配慮している。</p> <p>・2・3年上, 下の巻末資料では, 鑑賞教材として「デザインの歴史」と「日本美術の展開と世界との交流」の年表を載せ, 日本の伝統文化と海外文化とのかかわりが載せてある。</p>	<p>・巻末資料では色や技法等の解説をしており, 自学自習に生かす工夫が示してある。</p> <p>・題材ごとに「ポイント」を載せ, 生徒自身が課題に取り組みやすいように配慮されている。</p> <p>・2・3年下 p.18 や p.46 にみられるように, 芸術がもつ「平和」に対する取り組みや影響を取り上げ, 様々な関わり方を示している。</p>	<p>・2・3年上の巻末では伝統工芸について職人の姿と共に取り上げている。</p> <p>また県名もあげ, 社会科や総合的な学習の時間などに関連付けて扱うことができる。</p> <p>・「オリエンテーション」の解説を裏表紙に記載してある。(p.2, 3)</p>	<p>・各テーマに沿った参考作品に近代作品が多く見られる。また, 制作の手立てになるような風景やモチーフの写真が多く, 生徒が制作する上で内面世界を具体化しやすい内容となっている。また, 参考作品や制作過程を取り上げ, 生徒が見通しをもって制作できるような工夫がされている。(1年 p.31 等)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

保健体育科 No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
A	<p>・基本的な内容が精選され, 妥当な分量となっている。一文一文の長さも適当で, 読みやすいため理解しやすくなっている。</p> <p>・p.54 にもあるように本文中の資料には中学生に身近な例が多く取りあげられ, 考えやすくなっている。</p>	<p>・1つの章が終るごとに確認の問題や自己評価のページがあり, 知識の確実な習得が図られるよう工夫されている。</p> <p>・教科書への書き込み欄が多く, 主体的な学習になるよう構成に工夫されている。</p>	<p>・学習内容に関連した読み物資料やクイズがあり興味・関心をひくような工夫がある。</p> <p>・導入部分に位置づけられる「やってみよう」では, 実験, 書き込みなどを行うような工夫があり学習に入りやすくなっている。</p>	<p>・島根の課題である「表現力」の育成に適した事例を用いた「話し合い」などが22個用意されている。</p> <p>・p.94~97の薬物乱用やp.58~59の犯罪被害, p.16~27の心の健康等について, ページを多く割いて示されており, 現代社会の課題に対応するものである。</p>	<p>・各章の初めには, 小・中・高校の学習内容が系統的に示されている。また, 章末資料には, 学習内容と関連した資料が示され, これらは, 自学自習や発展的学習につながる。</p>	<p>・p.2~4には, 保健体育の学習方法について, ブレインストーミングやロールプレイなどの方法が示されており, 初めて学習する生徒にとって学びやすくなっている。</p>	<p>・学習内容の確実な習得を図るために, キーワードを本文欄外に抜き出して示したり章末に書き込み可能な確認問題を位置づけたりするなどしている。</p> <p>・イラストのキャラクターを使い分け, 表情等を読み取りやすくしている。</p>
B	<p>・基本的な内容が精選され, 妥当な分量となっている。一文一文の長さも適当で, 読みやすいため理解しやすくなっている。</p> <p>・p.117のように文章だけではなく, 内容を図式化して視覚的にも理解できるよう工夫されている。</p>	<p>・1つの章が終るごとに重要な言葉について解説をつけてまとめたり学習の要点をまとめたりしてある。</p> <p>・知識の習得だけでなく, 「学習を活かして」を設けて知識の活用・応用が図られるように工夫されている。</p>	<p>・p.56,57のように紙面がカラフルで図や写真が大きく, 生徒の興味・関心をひくよう工夫されている。</p> <p>・「トピックス」を設けて, 学習内容に関連する話題を提供し, 興味・関心を高めると共に発展的な学習につながるように工夫されている。</p>	<p>・体育理論の導入等に対応するため体育編にページを多く割いている。</p> <p>・自然災害, 廃棄物・環境汚染と健康の問題等の今日的課題に対応できる内容を多く扱っている。</p> <p>・体力向上が島根の課題であり, p.44,45にはマイトレーニングを作るための具体的な記述がある。</p>	<p>・発展的な学習内容を体育編・保健編の巻末にまとめて示している。これらの資料を参考に自学自習することも可能となるような工夫がある。</p> <p>・欄外にミニ知識を50個紹介し, 学習内容について更に広げたり深めたりできるようにしている。</p>	<p>・各章扉には, 学習目標と学習内容を図式化して示し, 各章の流れが大観できるように工夫されている。</p>	<p>・教科書のサイズを横広にして, 図や写真等を多く載せ, カラフルでビジュアルなものに仕上げている。視覚的に支援をしながら学習内容の定着を図っている。</p> <p>・口絵の写真は大きく, 生徒の興味・関心を高めるものが多く掲載されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

保健体育科 No.2

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)	
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫		6. その他
L	<p>・単元, 単元内ともに系統性を重視した構成で無理なく年間計画が作成できる構成となっている。</p> <p>・各年齢世代を扱う内容を多く取り入れた構成となっており, 生涯スポーツの意味が理解しやすくなっている。</p>	<p>・口絵3, 4やp.2,3では, ライフサイクルの中での中学時代の位置付けを明確化した構成となっており, 生涯にわたる体育・健康を意識させようとしている。</p> <p>・傷害の防止の交通事故編で事故の危険の予測をわかりやすく記載するなど, 身近で具体的な事例を多く挙げた構成となっている。(p.96)</p>	<p>・導入部分にオリンピックの鮮やかな写真が掲載されており, 特に体育分野での生徒の興味・関心をひきやすくしてある。</p> <p>・コラム数は28個だが, 「知らせる」内容を中心とした興味深い話が掲載されている。</p> <p>・随所に段階的記述や表現がなされており見やすさを意識している。(p.11,37,79)</p>	<p>・島根の課題である「表現力」の育成に適した活動が28個と多く設定されており, 特に「やってみよう」での「話し合い活動」が多く設定されている。</p> <p>・生徒が書いた内容を含む読み応えのあるコラム・事例が多く, 読み手の意欲を喚起し読解力の育成に役立つ内容が多い。</p>	<p>・インターネットの接続例が40個と多く設定してあり PC を用いた発展的授業展開ができる。</p> <p>・自分で記述可能な部分や学習のまとめの「この課題に取り組んでみよう」は, 自学自習に対応している。(p.15,137)</p>	<p>・体育編, 保健編それぞれの冒頭に学習目的や内容が簡潔に図示されており (p.1,49), 何をどんなふう学習するのかがわかりやすくなっている。</p>	<p>・平面的で, 現代的な挿絵や文字構成となっており, 学習内容の理解の際の視覚的支援となっている。</p> <p>・ページの左右に罫線入りのスペースが確保されており, 窮屈感のないデザインとなっている。</p>
P	<p>・単元ごと, 単元内ともに系統性を重視した編集となっており, 年間計画が作成しやすい構成となっている。</p> <p>・随所に語句の説明欄が設けてあり理解の支援となるとともに, 写真や図の質, 量ともに適切である。</p>	<p>・食生活と生活分野で, 給食の内容や朝食, 間食, 夜食など実際の学校生活・家庭生活と関連づけてあり, 現実的でわかりやすい内容となっている (p.56,76)</p> <p>・「調べる」には関連する内容を具体的にページ数で示してあり, 探究的な学習ができるようになっている。</p>	<p>・チェックシートで確認する部分を多く設定するなど, 計算や作業的内容で興味・関心が持続しやすい工夫がみられる。(単元末「用語の確認」及びp.36,68等)</p> <p>・コラム数は33個と多めに設定してあり, その内容も簡潔かつ現代的なものが多く設置間隔も適切で興味・関心をひきやすくしてある。</p>	<p>・島根の課題である「表現力」の育成に適した活動が中心に構成されており, 特に「話し合ってみよう」が多く設定されている。</p> <p>・読み応えのあるコラムが多く, 読解力の育成に役立つ内容が多い。</p> <p>・体力向上が島根の課題であり, 新体力テストが多く扱ってあり, 結果の活用例も具体的に示してある。(p.145~147)</p>	<p>・ウェブページやホームページの紹介があり, 接続先もわかりやすく表記されている。</p> <p>・発展的学習について各単元の終わりに「探究」が適切な量で見やすく配置してある。</p>	<p>・1ページまたは見開き2ページによる構成が多く, 文字の大きさや挿絵の大きさも適切であり, 見やすい。また, 思考が連続していくように工夫されている。(p.62~63)</p>	<p>・全体に挿絵のレベルが中学生向きで, 生徒の関心・意欲を喚起しやすくなっている。細かな表情も豊かに表現できており, 説明の補助として適切である。</p> <p>・生徒の立場で考えた言葉が例示に多く使われている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭科（技術分野 No.1）

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な写真, 図, イラストが適切に使用され, 生徒にわかりやすい紙面構成になっている。 ・「材料と加工」では, それぞれの材料の特徴, 性質とその材料に応じた加工法が詳しく説明されている。(p.42～45) 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近で使える, 環境に配慮した題材が多く取り扱われている。(p.50～51等) ・1～3各編では, 「基礎技能」をまとめた構成になっている。(p.68～83等) ・各編の最後に「学習のまとめ」が設けてあり, 学習を振り返って, 自己評価ができるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な実習例が用意されており, 生徒の興味・関心によって選択できるようになっている。(p.170～177等) ・各編末に「Let's click」や「ひとくち memo」が設けてあり, 生徒の興味を拓げる工夫がされている。(p.94等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各編とも技術の「評価・活用」を大きく取り上げた章の構成になっている。(p.86～91等) ・ガイダンス「技術と環境について考えよう」(p.18,19)や「環境に配慮した材料で作ろう」(p.60, 61)など環境に配慮した材料を紹介し, 生徒の実践につながるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な内容については, 「発展マーク」がついており, 発展的な学習内容であることがわかりやすくなっている。(p.106等) ・各編末に学習の振り返り, 確認, 発展の課題が設けられている。 ・「情報モラルを身につけ情報を安全に利用しよう」など情報モラルについて十分取り扱っている。(p.198～201) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や, 高等学校, 他教科へのリンクなど, マークで示す工夫がされている。(p.2,3) ・「実習の安全」について大きく取扱われている。(p.4, 5, p.42～45等) ・紙面の色も配慮され, またふりがながゴシック体で振られ, 読みやすい構成になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各編に「評価・活用」の章が設けてあり, 持続可能な社会の構築のために, これからの技術を考え, 表現できる学習内容になっている。 ・「基礎技能」のページとして, 加工方法や基礎的技能がまとめてある。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての製作過程を大きな写真で示し, 生徒に分かりやすい具体的な加工方法が記載されている。p.119～121等) ・内容が精選されており, ゆったりした紙面構成になっている。 ・製作や栽培の題材例が豊富に紹介されている。(p.14,15,148,149等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物育成の単元においては, 「ベビーリーフ」の栽培の実習例を章の始めから取り上げており, 実践的な内容構成になっている。(p.140～143) ・「材料と加工」においては, p.32とp.33の間に「ジグ」についての折り込みがあり, 安全に製作できるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元において, 大きな写真やイラストがふんだんに表示されており, それぞれにわかりやすく, 丁寧に説明されている。 ・「強さへの挑戦」の「ブリッジコンテスト」(p.82)や「歩くしくみを極めたビーチアニマル」(p.126)など, 生徒の興味・関心を引く実験や資料が紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話し合おう」「調べよう」「考えよう」のように, 言語活動につながる発問が取り入れられている。(p.184) ・「LCA」(p.134)や「フード・マイレージ」(p.147)など, 社会や環境に配慮された事項が詳しく説明されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各章末には, 「まとめ」「章末問題」のページがあり, それまでの学習内容を簡単に確認できるようになっている。(p.84,85等) ・「材料と加工」の単元での製作例では, 加工手順に沿って, 写真入りで詳しく説明がなされており, 自主製作にも対応できる。(p.28～30等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・先進的な技術についても, 図や写真を交えてわかりやすく紹介している。(p.83,135,185,243) ・本文を読むと, その時に参考となる図や写真がすぐわかるように, 記号を使って表示されている。(p.46,47等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通し, 大きな写真やイラストが記載されており, 一目見ること興味・関心が湧いたり, 理解の手助けになったりするように工夫されている。 ・「材料と加工」や「生物育成」において, 製作や実習例を章の初めに示し, 学習の流れがつかみやすくなっている。

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭科（技術分野 No.2）

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)	
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫		6. その他
D	<p>・教科のガイダンスの章を設け, 豊富な写真やイラストを使用して, 技術全体の学習内容が把握しやすくなっている。(p.2~19)</p> <p>・巻末資料として, コンピュータの基本操作が取り上げられている。(p.242~253)</p>	<p>・「材料と加工に関する技術」の製作の单元において, 「木材による製作」(p.52~71) と「金属・プラスチックによる製作」(p.72~81) を分けた構成になっている。</p> <p>・「材料と加工に関する技術」では製作工程を重視し, 製作の单元では, 各ページの上部にどの製作工程かがわかりやすく図示されている。(p.52~81)</p>	<p>・各ページの欄外下には, 「豆知識」のコーナーが設けてあり, それぞれの学習内容を深める情報が紹介されている。</p> <p>・各ページの左上角には, 各单元で扱う用具等が小さな写真で表示されている。</p>	<p>・「社会・環境とのかかわり」のように, それぞれの章の章末には, 技術が社会や環境に果たしている役割について, イラストなどを豊富に使い, わかりやすく説明されている。(p.128)</p> <p>・情報セキュリティ, 情報モラル, 知的財産について多くのページを割き, 詳しく説明されている。(p.192~203)</p>	<p>・「工夫してみよう」という項目を入れ, 基本的な題材から発展的な題材への移行を容易にさせている。(p.216)</p> <p>・单元末に「ウォッチング」という項目を設け, 学習内容を深めたり広げたりして, さらに探究していく内容になっている。(p.170等)</p> <p>・製作過程の修正方法について, 具体的な記載がある。(p.69)</p>	<p>・技術分野4つの内容を横断的に扱った複合教材の参考実習例として, 「かん水装置」を紹介している。(p.125)</p> <p>・学習の節目でそこまでの学習を振り返り, 教科書に書き込むことができるようになっている。(p.153等)</p>	<p>・教科の学習を始めるにあたってのガイダンスを重視し, 豊富な資料, 写真, イラストを使用し, 3年間の学習への導入としている。</p> <p>・「材料と加工に関する技術」では, 「木材による製作」を大きく扱い, 製作工程がわかりやすく表示されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭科 (家庭分野 No.1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫	6. その他	
A	<p>・p.48～53, p.112～119のように、身に付けたい技能が「基礎技能」として掲載されている。</p> <p>・小学校での学習の振り返りや、これからの学習の見通しをもたせるガイダンスの内容が充実している。(p.6～13)</p> <p>・p.236～239にあるように、「生活の課題と実践」では課題解決学習の進め方について詳しく示されている。</p>	<p>・衣食住の内容から始まり、生活の課題と実践は最後にまとめて掲載されている。(p.235～245)</p> <p>・各節ごとに「目標」「チェック」が設定されている。(p.22,25等)</p> <p>・各編の「学習のまとめ」では、自己評価と記述問題による振り返りから、実生活への活用課題が設定されている。(p.88,89等)</p>	<p>・p.12, 13にあるように、3年後の自分を意識することで学習意欲が高まるよう工夫されている。</p> <p>・各節とも生徒の生活の振り返り(p.22)から学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>・p.222にあるように消費者トラブルの例で、中学生の事例が多く掲載されている。</p>	<p>・一つ一つの実習例が、図や写真を用いて、取り組みやすいように表記されている。(p.56～75, p.150～155)</p> <p>・p.247にあるように「言葉のページ」が掲載されており、家庭生活に関する用語の習得を図る配慮がされている。</p>	<p>・「発展」と明記され、例えば日本の伝統・文化(p.158)や、乳児期の写真(p.196,197)などが取り上げられている。</p> <p>・家庭での実践課題が記述されており、主体的に学習を進められるようにされている。(p.81,p.105等)</p>	<p>・口絵1, 2が技術分野の教科書とペアになっており、技術・家庭科のつながりが強調されている。</p>	<p>・生徒が理解しやすいように写真や図、挿絵のデザインや配色が工夫されている。(p.122,123等)</p> <p>・生活の自立に必要な基礎基本に重点をおいた学習課題が設定され、課題解決に向けた学習の手立てが明確に示されている。</p>
C	<p>・図や挿絵が多数あり、生活体験の不足を補う紙面とされている。(p.27,108,109等)</p> <p>・各章に実習例や事例が多く掲載されている。(p.92～95,190,191等)</p> <p>・和服の着用図と説明が詳しく示されている。(p.157～159)</p>	<p>・構成が内容A～Dの順になっており、生活の課題と実践が各内容の最後(p.62～67等)に掲載されている。</p> <p>・導入では、生活の自己診断や気付きを促す課題が設定されている。(p.10等)</p> <p>・特定の事象、事項、内容に偏らないよう取扱う例示を多くし、教材選択の幅を広げる工夫がされている。(p.104, 105等)</p>	<p>・学習内容に関する資料が豊富に掲載されており、興味深く学習を進められる工夫がされている。(p.80～82,138,139)</p> <p>・p.30, 31, 69にあるように、導入で写真を効果的に使うことにより学習内容への関心を高められるようになっている。</p>	<p>・各学習項目の最初にはキーワードチェック(p.32等)が、各章の最後には確認問題(p.60,61等)が掲載されており、知識の定着を図る工夫がされている。</p> <p>・伝統的な郷土料理(p.138)とお雑煮(p.143)で、島根県が紹介されている。</p>	<p>・「発展」と明記され、例えば自己決定のプロセス(p.28)や金銭の管理(p.238)などが取り上げられている。</p> <p>・p.117～135にあるように、調理例を組み合わせることで献立を考えることができるよう工夫されている。</p> <p>・p.256にあるように、グローバルな視点で学習できる資料が掲載されている。</p>	<p>・生活の課題と実践例では、技術分野と連携して学習できる事例が挙げられている。(p.146)</p>	<p>・導入、図、本文等のレイアウトが統一され、学習の流れをつかむ工夫がされている。</p> <p>・情報量が豊富で、生徒のもつ課題や興味・関心に対応できるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭科 (家庭分野 No.2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自学自習についての工夫	6. その他	
D	<p>・写真を多く使用しており、しかも巻頭 (p.4～13) や各内容の導入部分 (p.16,17 等) では大きく掲載されている。</p> <p>・環境に関する学習内容が多く取り入れられている。(p.226～236)</p> <p>・『生活の課題と実践』では実践例が多く掲載されている。(p.241～253)</p>	<p>・構成が内容A～Dの順になっており、生活の課題と実践は最後にまとめて掲載されている。</p> <p>・小項目ごとに「学習の目標」と「振り返り」が設定されている。</p> <p>・p.112, p.114 にあるように、簡単に組み組める実習例を紹介されている。</p>	<p>・写真を見開きで大きく掲載することで生徒の関心を高めたり、学習内容を考えさせたりするよう工夫されている。(p.4～13,32,33,83～85)</p> <p>・著名人のインタビューや体験談 (p.21 等) により、学習内容への興味を促している。</p>	<p>・学習の導入で具体的な課題を設定し (p.20 等), それについて調べたり, 考えたり, 話し合ったりしながら学習が深まるように工夫されている。</p> <p>・p.134 には地域の特産物としてしじみ汁が, p.174 には気候風土と住まいの外観として出雲地方の築地松が紹介されている。</p>	<p>・「発展」と明記され, 例えば地域交流 (p.62) やおいしさ (p.108), 環境問題 (p.236) などが取り上げられている。</p> <p>・家庭や地域の食育推進として取り上げられる弁当を発展内容として扱っており、学んだ知識・技術が生活に活用できるよう工夫されている。(p.130,131)</p>	<p>・目次 (p.2) には, 家庭分野の学習の始めにガイダンスとして扱うべき項目が示されている。</p>	<p>・体験談や生徒実習の写真 (p.241 等), 実践例が多く示しており, 学習活動に取り組みやすいよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

外国語科 No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
A	<p>・音とつづり, 慣れ親しんだ語彙をまとめて「Warm-up」で提示するなど, 外国語活動との円滑な接続のための工夫がある。</p> <p>・教材は言語材料, 言語活動, 題材内容とも各学年の生徒の発達の段階に応じた程度であり, 分量も適切である。</p>	<p>・本編は「Unit」(文法中心)と「Plus」(コミュニケーション中心)の2部で構成され, 習得から活用への流れを通じて4技能の総合的な育成を行い, コミュニケーション能力の基礎が養われるようになっている。</p> <p>・「Multi Plus」において, 4技能を結びつけながら統合的に活用できるよう構成されている。(3年 p.32,33 等)</p>	<p>・生徒にとって身近な異文化交流の場面, 将来の仕事, スポーツ, Web ページやメール, 英語の歌や映画などが扱われている。</p> <p>・写真やイラストが豊富で, 効果的に用いられている。</p> <p>・広く世界の諸地域の題材が取り上げられ, 生徒の興味・関心を高める工夫がある。</p>	<p>・3年生の「学び方コーナー」で文章のまとめ方と題し, あるテーマについてまとまりのある文章を書くコツが記述されている。(3年 p.53)</p> <p>・「Tool Box」や巻末の「Bonus Word Box」に, 言語活動に使える語彙や表現が豊富に掲載されている。</p>	<p>・「学び方コーナー」で音の変化, 辞書の使い方, スラッシュ読み, 5つの文構造などを扱ったり, 「Sound Box」でディクテーション(3年 p.49)やシャドーイング(3年 p.67)などを紹介したりするなど, 自学自習がスムーズに進められるような工夫がある。</p>	<p>・表やグラフを読み取る活動や, 読み取った内容について自分の意見や感想などを書く活動を通じて, 思考力・判断力・表現力が身に付く工夫がある。</p> <p>・各学年巻末の「名作鑑賞」や3年巻末の「Further Reading」により, まとまった量の文章を読むことができる。</p>	<p>・福祉, 多文化共生, 国際協力, 伝統文化, 人権に係る内容を取り扱うことで自らの生き方を考えさせ, 感性を育むことができるような工夫がある。</p> <p>・外国語活動との接続が意識され, 4技能の総合的な育成と統合的な活用を図るために, 全体的にバランスのとれた内容になっている。</p>
D	<p>・入門期の「Let's Start」では, 外国語活動の内容が反映されている。また, アルファベットが「Program」に位置付けられ, 時間をかけていねいに文字指導ができるような工夫がある。</p> <p>・1年11, 2年12, 3年10の「Program」で構成され, 1年間で無理なく学習できる分量となっている。</p>	<p>・各学年に3か所ずつ配列された言語活動「My Project」は, 4領域のバランスがとれた総合的な活動であり, 2つ以上の技能を関連付ける統合的な活動でもある。形を変えて基礎を繰り返して学習できる内容となっている。(3年 p.70,73 等)</p> <p>・目的に沿って学習活動が行えるよう, 各「Program」の冒頭に目標が明示してある。</p>	<p>・生徒にとって重要なポイントと授業・学習の手順がわかりやすく, 興味をもって活動できる構成になっている。</p> <p>・全学年に辞書のページとコラムが設けられ, 語学学習への関心を高める工夫がある。</p> <p>・1年巻末資料のアクションカードは多様に使用でき, 活用への興味を高めるものである。</p>	<p>・「Program」の内容理解を深める「Review Reading」と多読・速読用として「Extensive Reading」が設けられ, まとまった量の英語を読む力を育成する工夫がある。</p> <p>・環境問題や異文化相互理解を扱う題材が多く取り上げられ, 地球市民としての自覚を促す工夫がある。</p>	<p>・新出語句の横のチェックボックスや, 本文ページ右下の音読マークなど, 自学自習を促す工夫がある。</p> <p>・教科横断的な内容の「Challenge」というコーナーは, 既習事項の応用と発展であり, 生徒が興味をもちやすく, 自学を促す教材である。</p>	<p>・サイズがAB版で, 紙面にゆとりがあり, タスクの手順が明確になっている。答えの記入欄にも充実している。</p> <p>・各「Program」の基本表現部分と文法解説部分が相互参照になっており, 文法とコミュニケーション活動の関連が意識できる工夫がある。</p>	<p>・日本の伝統文化や特色を扱う題材が多く取り上げられ, 自国について深く知ることで異文化相互理解を促し, 外国に発信できる基礎的な力を育む工夫がある。(2年 p.70~73)</p> <p>・2, 3年には人の生き方や平和, 共生を考えさせ, 豊かな心を育む読み物教材「Reading」が取り上げられている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

外国語科 No.2

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫	6. その他	
E	<ul style="list-style-type: none"> 各学年が4つの「Chapter」で構成され, 4領域の言語活動が適切に配置されている。 学習活動に有効な写真, 挿絵, グラフ, 図等が配置されている。 入門期の「Let's Enjoy English!」では, 外国語活動の内容が反映されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の冒頭に「Pre-Lesson」が設けられ, 外国語活動を含む前学年段階の内容と無理なく接続させるための工夫がある。 各学年の「Reading」の題材には, 共生, 文化, 環境等についての説明文, 物語文, 伝記などが取り扱われ, 生徒の感性を高め, 効果的に学習を進めるための工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の冒頭に配置されている「Pre-Lesson」により, 前学年での興味・関心を無理なく継続させる配慮がある。 一貫したテーマに基づいた「Chapter」, 及びそれを構成する「Lesson」や「Project」などの配列により, 言語材料及び言語活動を, 興味・関心の持続を図りながら効果的に学習するための工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年「Chapter1」では, 一人称単数を主語とする一般動詞から配列され, 積極的な自己表現やコミュニケーション活動を促す工夫がある。 各「Chapter」末には, 既習の言語活動や言語材料を用いて表現活動を行う内容や, 文構造のまとめが配置され, 表現力の育成を図る工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各「Chapter」冒頭に示されている各「Chapter」のねらいや内容, 見出しを通して, 見通しのある発展的学習を期待する工夫がある。 「Check It Out」の文構造のまとめを活用することで, 各「Chapter」の言語材料について自学自習を通して振り返ることができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の巻末に, 付録として「Word Up」, ミニ辞典コーナー等の単語や身近な表現等に関するまとめが掲載されている。 脚注部には, 発音記号と関連する単語が掲載され, 適切な発音を促す工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統文化や特色を扱う題材等を通して, 感性を高め, 自国理解と異文化理解を促し, 英語を用いて他国の人々とコミュニケーションを図るための基礎的・基本的な内容で構成されている。(2年 p.8~13等) 4技能の総合的育成と統合的活用を図るために, 全体的にバランスのとれた内容になっている。
F	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも8~9の「Lesson」で構成され, 生徒の発達の段階に適した程度と量である。 外国の友達との交流等生徒の身近な題材を取り上げた内容で, 4技能の力をバランスよく身に付け, コミュニケーション能力を養うのに適している。 数字や音とつづりについて, 外国語活動を踏まえた配列になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「不定詞を理解し, 使う」等, 各「Lesson」に3つの目的が明記され, 各ページには4領域のうち重点的に学ぶ領域が示されており, 生徒は目標を持って学ぶことができる。 新しい言語材料には, その文法の用語が表示されており, 文法事項を整理して学ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の冒頭には, 世界的に有名な英語の歌が楽譜付きで掲載されている。 生徒の興味・関心を喚起するような写真, イラストが効果的に使用されている。 生徒にとって身近なメール(1年 p.96-99), Webページ(2年 p.84,85), ボランティア活動(2年 p.12~14)等が題材に取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解, 人権, 福祉, 環境, 平和等, 今日的な内容が取り上げられており, 豊かな感性と広い視野を養えるよう配慮されている。 スピーチや会話の内容を深めるための具体的な方法等が「IDEA BOX」の欄で示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 巻末の付録には, 発展的な読み物教材や文法, 音の説明, 既習単語のまとめ等が配置されており, 生徒の実態や指導のねらいに応じて活用できるようにしている。 各「Part」の言語材料の「Point」には, その説明がある「文法の要点」のページが示されており, 自学自習に役立てられるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> つづり字と発音の関係について, 1年巻末付録では母音, 2年巻末付録では子音について発音記号とともに整理して示されている。 各「Lesson」のまとめでは, その課で学習する文法の要点についての簡潔な説明がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み物教材では, 平和や環境についての題材が取り上げられ, これらの課題について生徒に考えさせる内容になっている。 登場人物が発表したり説明したりする場面が多く設定され, 情報を相手に効果的に伝える手法を考えさせ, 自己表現力を高められるような工夫がある。

選 定 に 必 要 な 資 料

外国語科 No.3

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性をはぐくむ要素を含む)	
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自学自習についての工夫		6. その他
G	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年の新出語句欄には, 本文中の語句と入れ替え可能な語彙集が用意されており, 無理なく語彙を増やすための工夫がある。 ・多様な言語活動の展開を可能とするために, 文構造や文法事項の配列に工夫がある。 ・外国語活動を踏まえ, 1年冒頭で音声と意味, 音とつづりについて扱っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の「Lesson」から構成されている「Unit」ごとに学習の目標が明示されており, 見通しをもって学習に取り組めるようになっている。 ・「Unit」ごとに学習内容や題材と関連付けられた「Project」が配置されており, 4技能の統合的な活動を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年では身近な場面, 2年では世界や未来へ視野を広げる話題, 3年では伝統文化や社会問題が扱われており, 各学年の生徒の興味・関心に合っている。 ・「Lesson」の題材に関連付けられたコラムが掲載されている。 ・多くの国が題材として取り上げられており, 興味の幅や視野を広げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本について, 伝統文化だけでなく, 先進技術等の話題も扱われており, 自国への理解を深めることができる。 ・「Unit」ごとの「Project」は, 4技能の統合的な活動の場であるとともに, まとまった量のつながりある文章を書くことへの対応が可能である。(3年 pp.42,43 等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年間にわたり, 辞書の使い方や文法事項のまとめが掲載されており, 自学自習を助けるものとなっている。 ・3年学年末に掲載されている「重要構文復習リスト」等の内容は, 前学年等の内容を踏まえて構成され, 自学自習を助けるものとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4領域の中から1領域に焦点を当てた「Tips」(3年 p.45 等)では, 様々な課題が用意しており, それぞれの技能を多面的に高めることができる。 ・発音や抑揚等についての説明や演習が随所に挿入されており, 音声に関する学習を行ううえで有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な国の話題や新旧の日本の文化, 社会問題など多岐にわたる題材は, 生徒のものの見方や考え方を広げるものである。 ・4技能の総合的育成と統合的活用を図るための活動例が豊富に掲載されている。
J	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動を踏まえ, 音声と文字を結びつけるための教材が1年生の冒頭に配置してある。 ・1年では身近な話題, 2年では外国の生活や平和・福祉, 3年では社会問題などを扱い, 生徒の発達の段階に応じた題材が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各「Unit」は, 文法や重要事項の導入, 「Activity」(習得)から「Task」(活用)といった構成になっている。 ・学習事項をまとめて整理する「Language Focus」が設けてある。 ・「Activity」で4領域をバランスよく学習し, 「Task」や「Small Goal」で4技能の統合的な活用がなされる工夫がある。(2年 pp.34~38 等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年から3年までの本文が一貫したストーリーとなっており, 登場人物に思い入れを持ちながら, 人間関係や場面, ストーリーに興味をもって学習が進められる。 ・各「Unit」冒頭の扉のページでは学習の目標を明示するとともに題材について話し合ったり内容を予想したりすることで興味・関心を喚起する工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「Word Square」を教科書中央のページに設け, 言語活動を豊かにする語彙を多数掲載している。 ・「Task」でテーマに沿ってまとまりのある文章を書く活動が盛り込まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的学習のための工夫として, 巻末に選択読み物教材の「Special Program」が配置されている。 ・各学年巻末付録の文法のまとめでは, 文法事項を体系的に整理できるようになっており, 自学自習に役立てられるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“shoot a video”(1年 p.93)など, 実用的で自然な英語が随所に取り上げられている。 ・各「Unit」に「Read & Think」が設けられ, 読んだ内容について考え, 感想や意見を述べることで思考力・判断力・表現力の育成を図る工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文が一貫したストーリーになっていることが特徴であり, 本文が心に響く内容になったり, 言葉を使う場面と目的が明確になったりしている。 ・「Let's Read」では, 生き方や平和, 社会問題について考えさせたりする題材が取り上げられている。

